つ つなげよう未来へ！
し 市民協働による
ま まちづくり

つしまチカラ
Power Of Tsushima

平成２８年度

組織目標の成果

～「協働型市政の確立」を目指して～

長崎県対馬市

… アジアに発信する歴史海道都市　対馬 …

～　目　　次　～

Ⅰ　組織目標の評価一覧　・・・・・・・・・　1

Ⅱ　組織目標の成果（個票）　・・・・・・・・・　4

1　総務部　・・・・・・・・・　4

2　しまづくり推進部　・・・・・・・・・　6

3　観光交流商工部　・・・・・・・・・　１６

4　市民生活部　・・・・・・・・・　２１

5　福祉保険部　・・・・・・・・・　２７

6　健康づくり推進部　・・・・・・・・・　３０

7　農林水産部　・・・・・・・・・　３４

8　建設部　・・・・・・・・・　４３

9　水道局（部）　・・・・・・・・・　４５

１０　中対馬振興部　・・・・・・・・・　４８

１１　上対馬振興部　・・・・・・・・・　５２

１２　消防本部　・・・・・・・・・　６０

１３　教育委員会事務局　・・・・・・・・・　６３

平成２８年度　対馬市組織目標の評価一覧

部署	コード 全体	コード 個別	目標	評価
総務部	1	０１－０１	健全な財政運営の執行と財政状況のわかりやすい公表を行います。	○
	2	０１－０２	入札・契約の適正化に努めます。	○
しまづくり推進部	3	０２－０１	対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗管理及び必要に応じた見直しを実施します。	○
	4	０２－０２	国境離島新法による国の支援強化のための取り組みを強化します。	○
	5	０２－０３	対馬市景観計画の策定を進めます。	△
	6	０２－０４	地域循環システムの構築に向け検討を進めます。	△
	7	０２－０５	様々な機関や業種が連携して産業の振興を目指します。	△
	8	０２－０６	小規模水素ステーション及び燃料電池自動車の導入を促進します。	○
	9	０２－０７	木質バイオマスボイラーの整備促進を図ります。	×
	10	０２－０８	域学連携による地域づくりを推進します。	○
	11	０２－０９	移住に関する情報発信事業を行います。	○
	12	０２－１０	地域によるコミュニティバスの導入に向け、実証実験を行います。	○
観光交流商工部	13	０３－０１	魅力ある観光情報システムづくりを目指します。	○
	14	０３－０２	商業地域を中心としたにぎわいづくりをします。	△
	15	０３－０３	地場産品の更なる消費拡大に取り組みます。	○
	16	０３－０４	国際交流イベントをはじめとした交流人口の拡大を図ります。	○
	17	０３－０５	対馬固有の遺跡や文化財の保存活用を図ります。	○
市民生活部	18	０４－０１	窓口コンシェルジュ化、親切な窓口づくり、証明書交付事務の適正化と効率化に努めます。	○
	19	０４－０２	滞納処分の強化を図ります。	△
	20	０４－０３	各種団体が連携したリサイクル、ゼロ・エミッションを推進します。	△
	21	０４－０４	漂流・漂着ごみの回収と発生抑制対策を推進します。	○
美津島行政サービスセンター	22	０４－０５	税の現年収納率の維持に努めます。	○
	23	０４－０６	水道料金の収納率向上に努めます。	△

部署	コード 全体	コード 個別	目標	評価
福祉保険部	24	05−01	高齢者福祉及び障がい者の生きがいの創出に努めます。	○
	25	05−02	保育料の収納率向上に努めます。	△
	26	05−03	ペアリング（職員相互の連携）体制の強化による適正な支援サービスの提供に努めます。	○
健康づくり推進部	27	06−01	健康つしま２１計画の推進に努めます。	○
	28	06−02	慢性腎臓病（CKD）対策事業を実施します。	△
	29	06−03	市民健診の受診率向上に努めます。	△
	30	06−04	介護予防自主活動の拡大を図ります。	◎
農林水産部	31	07−01	對馬椎茸“やる倍”ナバダス計画総合対策支援事業を実施します。	△
	32	07−02	市有林整備の推進による循環型森林資源活用のためのオフセット・クレジット提案事業を実施します。	×
	33	07−03	対馬猪鹿活用促進事業を実施します。	○
	34	07−04	学校給食地場農林水産物導入事業を実施します。	△
	35	07−05	対馬の農林水産業担い手・「林業女子」育成及び「人材」発掘事業を実施します。	○
	36	07−06	魚礁の設置を進めます。	○
	37	07−07	水産物の輸送費補助を実施します。	△
	38	07−08	「海洋保護区」の設定を進めます。	△
	39	07−09	基盤整備工事の早期発注、早期完成に努めます。	△
建設部	40	08−01	市営住宅使用料未収金の縮小に努めます。	△
	41	08−02	公共工事の早期発注・早期完成に努めます。	◎
水道局（一部）	42	09−01	水道事業及び簡易水道事業の経営統合を推進します。	○
	43	09−02	水道料金の収納率向上に努めます。	△
	44	09−03	水道事業の有収率向上に努めます。	○
中対馬振興部	45	10−01	イベントと連携した体験型観光の推進を図ります。	◎
	46	10−02	適正な窓口業務、管轄地区内の環境美化に努めます。	○
	47	10−03	税・水道料金の納付促進に努めます。	△
峰行政サービスセンター	48	10−04	快適な窓口サービスと電話対応の向上に努めます。	○

部署	コード 全体	コード 個別	目標	評価
上対馬振興部	49	１１－０１	地域イベントを活かし交流人口の拡大を図ります。	○
	50	１１－０２	対馬の自然を活かした観光地の整備を図ります。	△
	51	１１－０３	窓口サービスの適正・迅速化と電話対応の向上に努めます。	○
	52	１１－０４	公共工事の早期発注・早期完成に努めます。	○
上県行政サービスセンター	53	１１－０５	観光客の誘致による活性化を図ります。	△
	54	１１－０６	窓口及び電話対応の向上に努めます。	○
	55	１１－０７	地域イベント・ボランティア活動へ参加します。	○
	56	１１－０８	庁舎内外の清掃を徹底します。	○
消防本部	57	１２－０１	地区消防団員の増員、車両の適正配置及び安全装備品の配備を進めます。	△
	58	１２－０２	応急手当の普及開発活動に取り組みます。	△
	59	１２－０３	住宅用火災警報器設置促進、維持管理及び宿泊施設の消防用設備等の設置促進を図ります。	△
教育委員会事務局	60	１３－０１	教育施設の充実・整備、有効活用を推進します。	○
	61	１３－０２	確かな学力・豊かな心を育む教育活動を推進します。	○
	62	１３－０３	スポーツ施設の整備・魅力化を図ります。	○
	63	１３－０４	芸術文化鑑賞の機会充実及び市民文化活動の支援を行います。	○
	64	１３－０５	文化財の保存・活用を図ります。	○

■集　計　表

項目		結果
◎	目標を上回る実績	3
○	目標どおりの実績	36
△	目標を下回る実績	23
×	目標を著しく下回る実績	2
―	評価不能	0
計		64

全体	1
個別	01-01

平成２８年度　[総　　務　　部]　目標の成果

課　名	財　　政　　課

№	項　　目	健全な財政運営の執行と財政状況のわかりやすい公表

１．組　織　目　標

【 内 容 】
・市の財政状況や予算・決算などについて、市報・ホームページにわかりやすい形で掲載し、市の財政状況に関する市民の理解を深められるように努めます。
・将来にわたって健全な財政運営を確保するため、第３次対馬市中期財政計画（計画期間H28～H32）を策定します。
・公共施設等総合管理計画策定及び新地方公会計整備（H29までに整備）に取り組みます。
【 指 標 】
・予算、決算の状況について広報、ホームページに掲載

２．実績(成果)

・財政状況等公表状況

公表項目	ホームページ	市報
平成２８年度当初予算概要	○	○
平成２７年度下半期及び平成２８年度上半期予算の執行状況	○	○
平成２７年度決算	○	○
平成２７年度健全化判断比率及び資金不足比率	○	－
第３次対馬市中期財政計画	○	－

・第３次対馬市中期財政計画、及び公共施設等総合管理計画策定済
・新地方公会計システム整備済
・繰上償還　300,000千円

３．評　　価　○

当初予算をわかりやすく説明した「対馬市のしごと　平成２８年度の予算」を作成し、市内全世帯に配付するとともに、ホームページに掲載しました。平成２７年度の決算状況についても広報に掲載しました。
第３次中期財政計画及び公共施設等総合管理計画を策定し、ホームページで公表しました。

４．今 後 の 展 開

今後ますます厳しい財政状況となることが予想されるので、しっかりとした財政見通しを立て健全な財政運営に努め、市の財政状況について市民にわかりやすい形で公表していきます。
統一的基準による財務書類の作成については、平成２６年度に国より整備促進の要請がなされたところであり、示されたスケジュールに沿って取り組みます。

全体	2
個別	01-02

平成２８年度　[総　　務　　部]　目標の成果

課　名	財　　政　　課

№	項　　目	入札・契約の適正化

１．組 織 目 標

【 内 容 】
常に入札契約制度の検証を行い、公正性の確保・客観性・透明性の向上に努めます。また、現下の経済情勢を考慮し、国・県の動向と歩調を合わせ、適正な落札率となるよう運用を図ります。
また、現在の入札参加資格者申請について検証を行い必要に応じ、改めるよう努めます。
さらに、業者の格付けについても検証し、必要に応じて改めるよう努めます。

【 指 標 】
・最低制限基礎価格の乗率を建設工事については９０％、コンサル業務、役務については７５％とすることを継続し適正な落札率となるよう運用を図ります。
・現在の入札参加資格者申請について、検証を行い、必要に応じて改めます。
また、業者の格付けについても検証し、必要に応じて改めます。

・当初発注予定工事公表分（６１件）の入札実施目標
・第１四半期　８件　　・第２四半期　４５件
・第３四半期　５件　　・第４四半期　３件
・平成２７年度より入札時に提出を義務づけた工事費内訳書について引き続き制度の周知徹底に努めます。

２．実績(成果)

本課が取り扱った入札契約件数は、建設工事１３９件、建設工事関連コンサルの入札８４件、物品・役務等８３件で、平均落札率は、建設工事では９１．０１％でほぼ昨年と同等の落札率でした。また、コンサル業務の平均落札率は８１．２９％でした。物品・役務の平均落札率については８１．４０％でした。

３．評　　価　◯

落札率はほぼ昨年と同等であり、適正に推移しているものと考えます。
建設工事の入札における工事費内訳書の提出により見積能力のないような不良・不適格業者の参入を排除し、併せて談合等の不正行為やダンピング受注の防止を図りました。
建設業者等の信用及び技術力等を重視するとともに公正自由な競争を図ることができました。

４．今 後 の 展 開

入札契約制度を常に検証し、公正性・公平性・客観性を追求し、制度の構築に努めます。

全体	3
個別	02-01

平成２８年度　［しまづくり推進部］　目標の成果

課　名	政　策　推　進　課

№	項　　目	対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗管理及び必要に応じた見直しを実施します。

１．組織目標

【 内 容 】
平成２７年度に策定した「対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げる各種施策の進捗状況及び重要業績評価指標（ＫＰＩ）を管理するとともに、新たなニーズや社会情勢の変化に応じ、総合戦略の見直しを行います。

【 指 標 】
●総合戦略に掲げる事業・施策の実施状況の把握
●各重点施策に掲げる重要業績評価指標（ＫＰＩ）の達成状況の把握
●必要に応じた戦略の見直し

２．実績(成果)

●事業・施策の実施状況・実施計画、目標・成果の調査：平成２８年８月実施
●総合戦略推進会議の開催（施策の検証）：平成２８年８月３１日
●施策の実施状況・検証結果、実施計画の公表（市ホームページ）：平成２８年１０月

３．評　　価　◯

総合戦略推進会議の開催は、総合戦略の見直しがなかったため、１回の開催でありましたが、それ以外については目標どおりに実施しました。

４．今後の展開

総合戦略における施策を推進するため、地方創生交付金の積極的な活用を図ります。

全体	4
個別	02-02

平成２８年度　［しまづくり推進部］　目標の成果

課　名	政　策　推　進　課

№	項　　目	国境離島新法による国の支援強化のための取り組みを強化します。

１．組織目標

【 内 容 】
本年３月に成立した「有人国境離島地域の保全及び特定有人国境離島地域に係る地域社会の維持に関する特別措置法（通称：国境離島新法）」に定める国の支援策を有効に享受するため、本市ならではの課題、施策に対応した要望及び国への提案を、市内民間機関、市議会をはじめ長崎県及び関係市町と連携し進めます。

【 指 標 】
有人国境離島法の基本方針中、特に①雇用機会の拡充に関する政策及び②安定的な漁業経営の確保に関する施策について、国の平成２９年度予算の概算要望時期に併せ、関係機関の意見、要望を踏まえた提案を県と連携して取り組みます。

２．実績(成果)

特定有人国境離島の地域社会の維持に係る交付金が創設により、次の事業への支援を行うこととされました。
①運賃低廉化
②物資の費用負担の軽減
③滞在型観光の推進
④雇用機会の拡充

３．評　　価　◯

新たな交付金の創設により、４つの事業への支援が決定しました。

４．今後の展開

事業の円滑な実施に向け、市民に事業内容及び制度の周知を図ります。

全体	5
個別	02-03

平成２８年度　［しまづくり推進部］　目標の成果

課　名	政　策　推　進　課

№	項　　目	対馬市景観計画の策定を進めます。

１．組織目標

【 内 容 】
対馬市景観計画の策定に向け、景観に関する現況調査を実施するとともに、市職員による作業部会及び外部委員を含めた景観計画策定委員会を設置し、景観形成に向けた課題整理及び景観計画の内容について協議を実施します。

【 指 標 】
景観に関する現況調査、課題整理を行い基本方針を策定し、対馬市景観計画策定に向け作業を進めます。

２．実績(成果)

●景観計画策定委員会の設置：平成２８年１０月
●景観づくりアンケートの実施（１１月～１２月）対象：市民３，０００人（無作為抽出）
●景観計画策定委員会の開催：２回（平成２９年１月、平成２９年３月）
●ヒアリングの実施（２月）

３．評　　価　△

景観計画策定のための予算計上が７月となったため、委員会の設立及び開催が計画より遅れましたが、基本方針の設定及び骨子についてはある程度進める事ができました。

４．今後の展開

平成２９年度中の計画策定に向け、検討・協議を進めます。

全体	6
個別	02-04

平成２８年度　［しまづくり推進部］　目標の成果

課　名	未　来　創　生　課

№	項　　目	地域循環システムの構築に向け検討を進めます。

１．組　織　目　標

【 内 容 】
「自立するふるさとのしま　対馬」をキャッチフレーズに、「海」「森林」「国際ビジネス」「生ゴミ」「地域コミュニティ」「域学「連携」の６つの循環を提唱し、地域資源を活用した産業振興と循環社会の実現に向けて、平成26年度に作成した３箇年計画に基づいて、調査や検討を進めます。

【 指 標 】
◎推進本部会議の開催　2回
◎プロジェクト会議（10部会）の開催　随時
◎市民や議会への進捗状況の公表　1回

２．実績(成果)

◎本年度、推進本部会議2回開催
◎プロジェクト会議：10部会中６部会が開催、1部会が生産部会を開催。
◎循環システム構築後、5年を経過し、各部会の取組内容に濃淡が出てきていること、関係する部局間の施策展開において、有効活用できていない部会も出てきていることから、各部局において、次年度以降の存続、休止、発展的改編の可否について議論し、結論を出しました。

３．評　　価　△

本地域循環システムについては、各部会での協議及び推進本部会議での協議により、発展的改編を行うこととなりました。

４．今後の展開

本年度の部会での協議を踏まえ、現時点での市の施策方針等に基づき、次年度に真に必要な取組みを新たなプロジェクトとして立ち上げます。

全体	7
個別	02-05

平成２８年度　［しまづくり推進部］　目標の成果

課　名	未　来　創　生　課

№	項　　目	様々な機関や業種が連携して産業の振興を目指します。

１．組織目標

【 内 容 】

事業者団体、金融機関、大学などの研究機関、行政、その他産業振興に携わる団体等で構成する「対馬市創業支援会議」において、創業を希望する方を多方面から総合的に支援し、産業振興と雇用の増加により地域の活性化を目指します。

【 指 標 】

○ワンストップ相談窓口での相談受付：年２０件
　うち創業者の目標数：年９件
○創業支援会議の開催
　代表者会議２回、ワーキング部会４回（相談件数により増減します）
○異業種間連携交流協議会の開催：２回

２．実績(成果)

○ワンストップ相談窓口での相談受付
　受付件数１８件、うち創業者数２件
○創業等支援会議の開催
　代表者会議１回、ワーキング部会１回
○創業等支援事業補助金による支援
　補助金交付件数　６件、６，２８７千円
○地域資源活用創業セミナー開催　１回
○創業準備セミナー開催　３回
○異業種間連携交流協議会の開催：１回

３．評　　価　△

新規創業は２件、新規雇用は６名創出していますが、創業後のフォローについて不足している部分があります。

４．今後の展開

ワンストップ相談窓口の啓発等により、創業希望者の掘り起こしをしながら、創業支援会議で支援し、創業につなげます。
また、対馬市創業等支援補助金を事業者に使いやすいように内容の見直をします。

全体	8
個別	02-06

平成２８年度　［しまづくり推進部］　目標の成果

課　名	未　来　創　生　課

№	項　　目	小規模水素ステーション及び燃料電池自動車の導入促進

1．組　織　目　標

【 内 容 】
電力系統安定化のため、水素インフラや燃料電池の活用に注目が集まっている中で、対馬においても水素社会を見据え、また、島内資源で製造が可能な水素の利活用を推進するため、小規模水素ステーション及び燃料電池自動車の先進的な導入を図ろうとするものです。
【 指 標 】
関係機関(自動車・水素製造装置メーカー等)と離島への導入にあたっての注意すべき諸課題の掘り起こしとその解決に向けた協議を進めます。

2．実績(成果)

燃料電池自動車メーカー及び水素製造機器メーカーと計4回の協議を実施しました。
その中で、水素関連機器の特性上、塩害に弱いことや島内でのメンテナンスが難しいことなど離島における導入の課題を整理・把握することができました。

3．評　　価　◯

離島が塩害地域として認識されていること、現状では島内におけるメンテナンス体制が整っていないこと等、導入に係る課題を整理・把握することができました。

4．今後の展開

現状では塩害対策、メンテナンスの課題があるため、関係機関(FCVメーカー、水素製造機メーカー等)とのかかわりを維持しながら、塩害対策や導入事例など水素社会の動向を注視しつつ、引き続き導入の検討を図ります。

全体	9
個別	02-07

平成２８年度　［しまづくり推進部］　目標の成果

課　名	未　来　創　生　課

№	項　　目	木質バイオマスボイラーの整備促進

1．組織目標

【 内 容 】
公共施設への島内エネルギー資源を活用した木質バイオマスボイラーを整備します。

【 指 標 】
旧いづはら病院跡地を利用した温浴施設等への木質バイオマスボイラー設備及び付帯設備の整備に向けた計画策定を行います。

2．実績(成果)

いづはら病院跡の改修基本計画協議に毎回参加し、地域エネルギー活用のため木質バイオマスボイラー導入について意見交換を実施しましたが、具体的な導入検討には至っておりません。

3．評　　価　×

いづはら病院跡について、具体的な利活用計画が定まっていないため、木質バイオマスボイラー導入には至っておりません。

4．今後の展開

いづはら病院跡の利活用計画が定まり次第、導入に向け引続き検討を行います。

全体	10
個別	02-08

平成２８年度　[しまづくり推進部]　目標の成果

課　名	市民協働・交通対策課

№	項　　目	域学連携による地域づくりを推進します。

１．組織目標

【内容】
大学と地域が連携し、様々な地域課題の解決に向けた実践的な取り組みを進め、地域資源を活用した新たな産業や社会の枠組みを創出するなど、地場産業や観光産業等の活性化を図るとともに、地域づくりを担う人材の育成にも努めます。

【指標】
①域学連携地域づくり実行委員会の開催　１回
②インターン学生の受入
・短期合宿「島おこし実践塾」の開催　３０人
・現場学「学生実習」の受入　２０人
・学術研究（学術研究奨励補助研究、自由研究）の受入　４件
③域学連携活動・滞在拠点施設整備基本計画の策定
④「対馬学フォーラム」の開催　１回
⑤こども対馬未来塾の開催（自習スペースと郷土学習の提供）
・夏休みこども寺子屋（小中学生対象）　８月
・学び舎つしま（高校生対象）　２～３箇所

２．実績(成果)

①域学連携地域づくり実行委員会の開催　１回開催
②インターン学生の受入
・短期合宿「島おこし実践塾」の開催　２１人受入
・現場学「学生実習」の受入　７プログラム２６人受入
・学術研究（学術研究奨励補助研究、自由研究）の受入　１０件６７名受入
③域学連携活動・滞在拠点施設整備基本計画の策定　未策定
④「対馬学フォーラム」の開催　１回島内外３００名参加
⑤こども対馬未来塾の開催（自習スペースと郷土学習の提供）
・夏休みこども寺子屋（小中学生対象）　島内５ヶ所延べ５５３名参加
・学び舎つしま（高校生対象）　島内３ヶ所延べ１６３５名参加

３．評　　価　◯

平成28年度において、大学主催の実習・フィールド研究等の受入も含めると国内外88の大学等から603名の学生、134名の教員が来島した（延滞在人数3,653人）。平成26年度から平成28年度の3ヵ年、学生1,720名、教員450名、延滞在人数8,700人が来島・滞在し、26年度、27年度に参加した学生たちが何度も来島したり、数名の参加学生が移住したりするなど、域学連携は地方創生における人財の育成・人財確保に確実につながる成果が出ています。また、域学連携がきっかけとなり、学生や教員が自発的に研究・実践プロジェクトを立ち上げ活動を継続発展させるケースも見られ、そうした活動の中、口コミによって学内の新規学生や教員が対馬に来島し、交流人口の拡大につながるだけでなく、対馬の地域課題解決のために様々な研究・実践アプローチが得られたことも大きな成果と言えます。

域学連携地域づくり実行委員会の会長をお勤めいただいた日本大学の糸長浩司教授は域学連携での「学び」（リサーチやスタディ）が交流人口を拡大するツーリズムとなっており、対馬の大きな産業になっていると高く評価されています。全国的にみて、域学連携が盛んに行われている自治体はあまりなく、対馬市が全国の先駆けになっており、対馬市と特色を打ち出す上では、域

４．今後の展開

離島活性化交付金を活用した平成26年度～28年度は「対馬市域学連携地域づくり推進計画」（H26年6月策定）の「基盤づくり期」にあたり、同交付金によって域学連携の維持発展のための基盤を整えることができました。平成29年度からの3ヵ年は「発展期」と位置づけ、域学連携の自立的全島的な展開に向け、地方創生推進交付金等を活用し（予定）、大学や関係団体とのコンソーシアム化（連合体形成）を促しながら、財源的な自立化も図っていきます。

全体	11
個別	02-09

平成２８年度　［しまづくり推進部］　目標の成果

課　名	市民協働・交通対策課

№	項　　目	移住に関する情報発信事業

１．組織目標

【 内 容 】
移住に関する情報（対馬の暮らし、制度、住居、仕事等）の情報を広く発信します。

【 指 標 】
問い合わせ件数：３５件
移住者数：５件

２．実績(成果)

・各種移住相談会に約20名の方が参加され、また、来庁、電話等で約30名の方の問い合わせがありました。
・移住者数：4組6名

３．評　　価　◯

東京、福岡で開催された移住相談会へ参加することで、移住に興味を持たれている方へ対馬市の情報を発信することができました。相談会参加者からも1名移住されています。

４．今後の展開

各種相談会、ホームページ等で情報発信を続け、新規の移住希望者の開拓を行うとともに、これまでの相談者にも引き続き移住への後押しになるような情報提供を継続していきます。

全体	12
個別	02-10

平成２８年度　［しまづくり推進部］　目標の成果

課　名	市民協働・交通対策課

№	項　　目	地域によるコミュニティバスの導入に向け、実証実験を行います。

１．組織目標

【 内 容 】
市内北部の過疎地・高齢化が顕著な旧伊奈小学校区を中心とした地域に、そこに暮らす住民が快適に移動でき、持続可能な新たな公共交通体系の実現に向け、地域が運営するコミュニティバスを導入する実証実験を実施します。

【 指 標 】
地域におけるコミュニティバスの実証運行を開始

２．実績(成果)

・７月１日にコミュニティバスの運行協議会を設立
・７月、９月の２回運転手講習会を開催
・９月に九州運輸局に運行申請を提出
・１１月１日から実証運行を開始
・２月にアンケートを実施

３．評　　価　◯

予定どおり実証運行を実施することができました。
アンケート調査の結果では利用者の満足度は高く、また運行協議会の総会においては継続して取り組んでいきたいとの決定がなさていることからも、このコミュニティバスが地域にとって必要な交通手段として認識されたものと考えています。

４．今後の展開

地域住民の声を聞きながら、更に利用しやすい交通体系に見直していくとともに、コミュニティバス運行の空き時間をを利用した買い物支援など、地域の困りごとを解決していく取り組みも進めていきます。

全体	13
個別	03-01

平成２８年度　[観 光 交 流 商 工 部]　目標の成果

課　名	観　光　商　工　課

№	項　　目	魅力ある観光情報システムづくりを目指します。

１．組 織 目 標

【 内 容 】
観光案内版・誘導板の設置により、観光情報機能の強化を図るとともに、観光資源までのスムーズな誘導を促し満足度の向上を図ります。

【 指 標 】
・観光案内・誘導板を島内全域に１５基設置予定

２．実績(成果)

・観光案内・誘導板を島内全域に２１基設置しました。

３．評　　価　◯

設置数においては、目標指数を上回る結果となりましたが、観光案内板・誘導板の設置により市内各所に点在する観光地へのスムーズな誘導を促すことは観光客満足度の向上につながると考えます。

４．今 後 の 展 開

現在は、個人旅行のニーズが高まり、旅行形態も多岐にわたり多様化しています。また、レンタカー利用の外国人も増加しているため、引き続き事業の継続を行いますが、国費での継続が不可となったため、次年度以降は事業規模を縮小し、事業の効率化を図ります。

全体	14
個別	03-02

平成２８年度　[観 光 交 流 商 工 部]　目標の成果

課　名	観　光　商　工　課

№	項　　目	商業地域を中心としたにぎわいづくりをします。

1．組 織 目 標

【 内 容 】

市内商店街は、人口の減少や過疎高齢化などによりに以前の活気が失われ、にぎわいが低迷し続けています。しかしながら増加している韓国人観光客などの消費を取り込むことが出来れば、商店街の活性化につながる絶好の好機でもあります。この状況を活かすため、各事業者向けの研修会等を実施し知識や意識の啓発を行うとともに、商工業支援事業により資金面の下支えをしていきます。

【 指 標 】

商工業活性化の協議　　年３回
対馬市商店街にぎわい創出支援事業補助金
対馬市農商工連携支援事業補助金
対馬市中小企業振興(創業)資金融資条例（制度融資）
中小企業事業継承補助金及び顧客満足度向上設備導入補助金

2．実績(成果)

・商工会との地域ビジネス連携事業協議　　５回
・対馬市商店街にぎわい創出支援事業補助金　　２件採択
・対馬市農商工連携支援事業補助金　　1件採択
・対馬市中小企業振興(創業)資金融資（制度融資）　新規延べ8件　39百万円
・対馬市商工業活性化推進事業　　補助金14件採択　6,144千円

3．評　　価　△

商工関係諸団体と協議の上、新規事業の商工業者向けの設備投資補助金を実施した結果、1,700万円以上の設備投資を促すことができました。
一方で、にぎわい創出支援事業については、事業実施が2件にとどまり、新規性を失いつつあるため、商工会と更なる連携を深め、商店街の活性化を促します。

4．今 後 の 展 開

引き続き商工業の発展・振興に注力いたします。
既存の事業者のサポートを対馬市商工会と連携しながら行い、事業拡大・生産性向上による産業の振興と雇用の拡大を図ります。

全体	15
個別	03-03

平成２８年度　[観 光 交 流 商 工 部]　目標の成果

課　名	観　光　商　工　課

№	項　　目	地場産品の更なる消費拡大に取り組みます。

１．組 織 目 標

【 内 容 】
物産展等の継続開催や出展により、対馬の認知度向上と特産品PR・販路開拓を図ります。
福岡事務所や対馬観光物産協会と連携し、認知度向上による「つしまヂカラ」戦略プランに基づき、特産品のPRと販路開拓及び対馬特産品取扱店舗拡大に取り組みます。
情報発信の拠点として「よりあい処つしま」を活用し、定期的な対馬フェアを開催することで、PR・集客・誘客はもちろん、対馬特産品取扱い店舗の開拓を行います。
商品づくりの専門家による勉強会や指導・相談会の開催、バイヤーとの商談会を開催し、消費者ニーズに応じた商品づくりや販路開拓を図ります。

【 指 標 】
・九州管内での物産展等の開催　　5回以上
・各種物産展の企画・出展・斡旋　10回以上
・海山交流イベント　　5回

２．実績(成果)

今年度の物産展は、主に福岡県内で7回、東京3回、大阪1回などで出展を行い、合計15回開催しました。
「よりあい処つしま」において、対馬食材フェアを3回実施しました（まぐろ・あなご・ブランド魚）。
海山交流イベントでは、熊本県山江村と4回、岐阜県中津川市と1回の交流事業を行いました。

３．評　　価　◯

指数については、数値目標を達成することができました。
物産展の開催・出展により、消費者の求める商品の把握ができ、商品の改良、パッケージの改良等、売れる商品づくりに繋がりました。
また、福岡市内のホテルやレストラン等で対馬食材のフェアを実施し、対馬の特産品の販路拡大および認知度向上に繋がりました。

４．今 後 の 展 開

物産展を開催・出展することで対馬の知名度および特産品の知名度向上を図り、都市圏での認知度を上げるとともに、販路拡大を行います。

全体	16
個別	03-04

平成２８年度　[観 光 交 流 商 工 部]　目標の成果

課　名	文化交流・自然共生課

№	項　　目	国際交流イベントをはじめとした、交流人口の拡大

1．組 織 目 標

【 内 容 】
対馬厳原港まつり、国境マラソンＩＮ対馬、つしま海道音楽祭の国際交流イベントの開催支援を行い、国内外の交流人口の拡大を図ります。

【 指 標 】
・国境マラソンＩＮ対馬　1,400人　・対馬厳原港まつり　31,000人
・つしま海道音楽祭　800人　・韓国人観光客　220,000人
・朝鮮通信使セミナーの開催（支援）　3回

2．実績(成果)

・国境マラソンＩＮ対馬　７月３日開催　参加者数1,416人（内韓国人295人）
・対馬厳原港まつり　８月６～７日開催　観客数25,000人（内韓国人1,000人）
・つしま海道音楽祭　８月２７日開催　観客数　300人
・韓国人観光客　約260,000人
・通信使セミナー開催（支援）

3．評　　価　◯

・国境マラソンＩＮ対馬は目標を達成しました。
・対馬厳原港まつりは目標を下回りました。
・つしま海道音楽祭は目標を下回りました。
・韓国人観光客は過去最高の約260,000人となりました。
・通信使に関するセミナーについては、対馬の他、東京、京都、福岡で開催（支援）しました。
目標を達成できなかったイベントもありますが、韓国人観光客の順調な伸びに支えられたと言えます。

4．今 後 の 展 開

組織の改編により国際交流部門が観光部門から独立し、今後は交流人口の増だけでなく、登山や自転車などのマナー向上やルール遵守を図るため、旅行者（会社）への啓発を目的とした事業の充実が必要となります。また一部のイベントにおいては、開催時期等を見直し、交流の質の向上を図っていきます。

全体	17
個別	03-05

平成２８年度　［観光交流商工部］　目標の成果

課　名	文化交流・自然共生課 博物館建設推進室

№	項　　目	対馬固有の遺跡や文化財の保存活用

１．組織目標

【 内 容 】
１対馬博物館(仮称)施設の整備推進を行います。
２認定された日本遺産を活用し、広く周知することで対馬の魅力アップを図ります。
また、北部での構成文化財の追加認定を行います。
３朝鮮通信使の世界記憶遺産登録申請へ向けて、その活動支援を行います。
【 指 標 】
１　① 建設に係る国・県との協議及び運営に係る組織立案
　　② 基本・実施計画
　　③ みんなの博物館づくり事業の推進（WSの開催１回３会場・パネル展１回）
　　④ 市民説明会の実施（５回）
２　① 日本遺産認定後の市内外への周知活動（講演会実施１回）
　　② 構成文化財の追加認定申請（北部２県）
３　① 関係会議への参加
　　② 随時の支援・助言

２．実績(成果)

１　①必要に応じ関係機関との協議を実施し、運営組織も立案しました。
　　②基本設計は完成し、実施設計は計画変更のため完成は平成29年度になります。
　　③博物館の魅力を市民へ伝えるため、協働隊の開催講座等を利用し広報活動を行いました。
　　④市民説明会は５回実施しました。
２　①講演会実施１回　②追加認定（２件）完了
３　①②関係会議へ２回参加し、その他の支援等は行っていません。

３．評　　価　◯

○博物館建設のための実施設計については、計画変更により平成29年度の完成となりましたが、建設事業は予定どおり進捗しています。
○構成遺産が２件追加されましたが、さらに広報活動を実施し、活用に繋げることが今後の課題となっています。
○ 朝鮮通信使の記憶遺産登録には直接的な支援等はできませんでしたが、登録後は博物館と連携し、観光客等へのＰＲに寄与することができると考えます。

４．今後の展開

○ 博物館建設事業については、平成29年度に建設工事を着工する予定です。平成31年度末の竣工を目指し適正な監理を行っていきます。
また、運営面では開館を見据えた組織体制を構築するため、関係各課との協議を続けていきます。
○日本遺産や朝鮮通信使の記憶遺産については、博物館活動と連携できるよう、担当部署と協力し、観光客の増加に結びつけられる取組を模索していきます。

全体	18
個別	04-01

平成２８年度　［市　民　生　活　部］　目標の成果

課　名	市　　民　　課

№	項　　目	窓口コンシェルジュ化、親切な窓口づくり、証明書交付事務の適正化と効率化、番号制度導入にともなう適切な窓口対応

１．組　織　目　標

【内容】
１　市役所全体業務を把握し、来訪者へ適正な説明、案内に努め窓口コンシェルジュ化（区役所案内係）を推進します。
２　あいさつの励行、積極的な声かけ、丁寧な対応による親切な窓口づくりを推進します。
３　平成２６年度から運用を開始した各窓口センター及び郵便局における証明書等交付事務について、事務の現状把握を行い迅速な処理と正確な事務を確保します。
４　番号制度導入にともない、事前準備・広報等による周知を行うとともに、窓口での適切な対応を行います。

２．実績(成果)

・ 窓口サービスについては、当課以外の業務への問い合わせや窓口への誘導を適切に行いました。

・年度末、年度当初の繁忙期を除き、職員の方からのお客様へ積極的な声かけ行いました。

・ ５郵便局へ訪問し事務改善や要望等の聞き取りを行った結果、改善点の言及がなく概ね的確な証明書の交付が行われたと考えます。

・個人番号カードの交付事務にあたり、通知カードの返戻時の受け取り案内及び窓口でのマイナンバーカードの受け取り時の手続きについて随時CATV、対馬市報で広報を行いました。

３．評　　価　◯

市民課職員は市民へ接遇に気を配り他部署への案内も積極的に行い、一応の成果が出たと考えます。

４．今後の展開

市民課職員は、各自担当分野の知識を深め、市民のお役に立てる窓口づくりを行います。
各窓口センター、郵便局の証明書交付等は迅速かつ正確な事務を実現します。
個人番号制度は、具体的な番号の使い方や利用場面などをわかりやすく広報していきます。

全体	19
個別	04-02

平成２８年度 ［市　民　生　活　部］ 目標の成果

課　名	税　務　課

№	項　　目	滞納処分の強化

1．組 織 目 標

【 内 容 】
・滞納者対策の強化として、厳正な滞納処分を実施するため、積極的に財産調査、預貯金調査、生命保険等の調査を行い差押えの実施および滞納処分の停止等滞納整理の充実を図ります。
・ 新規滞納者への早期接触を図り滞納の解消に努めます。
・ 不動産公売の強化

【 指 標 】

平成28年度目標	市　税	現年分徴収率	97.80%	前年度実績	97.57%
		滞納分徴収率	15.00%	前年度実績	12.78%
	国 保 税	現年分徴収率	92.40%	前年度実績	92.25%
		滞納分徴収率	12.00%	前年度実績	10.59%

2．実績(成果)

平成28年度実績			目標徴収率に対する差
市　税	現年分徴収率	97.62%	△ 0.18%
	滞納分徴収率	11.86%	△ 3.14%
国 保 税	現年分徴収率	92.36%	△ 0.04%
	滞納分徴収率	10.02%	△ 1.98%

差押実績	（平成28年度）	（平成27年度）	増減
・一般（預金・生命保険・給与等）	104 件	156 件	△ 52 件
・不動産（捜索含む）	16 件	21 件	△ 5 件
計	120 件	177 件	△ 57 件
滞納処分の停止実績	234 件	202 件	32 件
口座引落件数	39,361 件	38,814 件	547 件
不動産公売実績	9件中3件	15件中7件	

3．評　　価　△

平成28年度の徴収率は、目標徴収率は達成できなかったものの、現年･繰越合計での徴収率は77.78%で、前年を0.94%上回りました。 税金全体に対する滞納繰越分の占める割合が依然として21.60%と高く、繰越分の徴収率が思うように伸びませんでした。

国民健康保険税の現年分は、昨年に引続き徴収率92%を上回りました。今年度の一般税においては、軽自動車税の税率変更により、昨年に比べ徴収率が落ち込んだものの、市県民税の特別徴収を推進していることもあり、全体的に現年分の徴収率は上昇の傾向にあります。また、滞納整理については、昨年に比べ、差押件数は減っているが、滞納処分の停止を含め、財産調査等の滞納整理が進んでいるものと思われ、納税相談等により自主納付は微増ではあるが増加の傾向にあり、更なる推進に努めます。

4．今 後 の 展 開

・ 新規滞納者への早期接触を計り滞納の解消および滞納世帯の減少に努めます。
・ 滞納世帯の分析、実態の把握を行い、効率的な滞納整理に取り組んでいきます。
（滞納整理重点地区を選び、滞納整理の強化にあたります。）
・ 長期差押不動産の換価価値について、精査を行い、効率のよい滞納整理を図ります。
・ 分納誓約者及び継続債権差押者の履行監視を強化します。
・ 現年分・繰越分合わせた未収額が、前年繰越額を上回らないよう努力します。

全体	20
個別	04-03

平成２８年度　[市　民　生　活　部] 目標の成果

課　名	環　境　政　策　課

№	項　　目	各種団体が連携したリサイクル、ゼロ・エミッションを推進します。

1．組 織 目 標

【 内 容 】
・生ごみと廃食油資源の再利用システム実証実験に取り組みます。
・生ごみ堆肥化推進等によるごみ量の削減を図ります。
・「元気野菜コンテスト」を開催している市民活動団体や生ごみ堆肥化の活動を行う各種団体を支援します。
【 指 標 】
・生ごみ・廃食油資源再利用システム実証実験事業の実施（回収世帯：3,000世帯）
・生ごみ等堆肥化推進によるごみ量の削減（生ごみ回収量：300t）
・第11回元気野菜コンテスト開催への支援（参加人数：100名）

2．実績(成果)

・生ごみ・廃食油資源再利用システム実証実験事業の実施
（回収世帯：世帯、週2回実施）
・生ごみ堆肥化推進等によるごみ量の削減（生ごみ削減量：約196t）

3．評　　価　△

昨年度に引き続き、今年度も生ごみ・廃食油資源再利用システム実証実験事業に取り組み、1,521世帯、週2回の回収を実施しました。今年度の生ごみ回収量も前年度より増加し、約196tとなっており、その分ごみ量の削減にも繋げることができました。
しかしながら、目標としていた3,000世帯、生ごみ回収量300tには届かなかったため、平成29年度は再度市内全地区へ協力世帯の募集を行うとともに、広報誌やCATV等の媒体を活用し、事業説明と周知を行います。また、回収量の増加を図るため、市内の事業所に対して事業協力依頼を行います。
なお、元気野菜コンテストについては、主催団体との調整を図ることができず、開催しておりません。

4．今 後 の 展 開

平成29年度も引き続き、生ごみ等の分別収集及び堆肥化に取り組み、将来的な市内全域での回収に向けて収集体制の構築を図るとともに、回収した生ごみ等については、「生ごみ等堆肥化施設」において堆肥化に取り組み、堆肥の品質及び供給体制の確立を図っていきます。

全体	21
個別	04-04

平成２８年度　[市　民　生　活　部] 目標の成果

課　名	環　境　政　策　課

№	項　　目	漂流・漂着ごみの回収と発生抑制対策を推進します。

1．組 織 目 標

【 内 容 】
・海岸漂着物処理推進法及び長崎県海岸漂着物等地域対策推進事業補助金を活用し、漂着物被害が著しい海岸を中心に海岸漂着物の円滑な処理を進めていきます。
・海岸漂着物等の発生抑制のための関係者間の連携・交流等を目的とした環境学習を広く開催します。（日韓市民ビーチクリーンアップ事業等）
【 指 標 】
・平成27年度に実施した長崎県海岸漂着物等地域対策推進事業補助金による漂着物の回収・処理を参考に漂着ごみの計画的な回収を実施します。
・日韓市民ビーチクリーンアップ事業及び漂着ごみ回収イベントを実施します。（2回）
・海岸漂着物回収、処理予定数量：トン袋で17,000袋

2．実績(成果)

・平成28年度の海岸漂着ごみについては、長崎県海岸漂着物等地域対策推進事業補助金を活用しながら、トン袋で8,195袋の漂着ごみを回収しました。
・2016日韓市民ビーチクリーンアップ事業の実施
　平成28年5月22日に韓国釜山外大の学生、市民等252名が参加し、トン袋で122袋の漂着ごみを回収しました。
・第4回日韓海岸清掃フェスタIN対馬事業の実施
　平成28年10月16日に対馬市と市民活動団体の共同主催で実施しました。悪天候により島外・韓国からのボランティア参加者のみでの海岸清掃となりましたが、トン袋で35袋の漂着ごみを回収しました。また、ワークショップも実施し、韓国人ボランティア4名、島外のボランティア28名に島内参加者10名が加わり、有意義な意見交換の場となりました。

3．評　　価　◯

　平成28年度も長崎県海岸漂着物等地域対策推進事業補助金を活用し、大規模な海岸漂着物の回収を行い、海岸環境や景観に対し一定の成果を得られました。また、韓国釜山外大生との海岸漂着物回収イベント「日韓市民ビーチクリーンアップ事業」、対馬市と市民活動団体の共同主催でのイベント「日韓海岸清掃フェスタIN対馬」を開催し、海岸漂着物の発生抑制対策が図られました。

4．今 後 の 展 開

　漂着ごみ対策は大規模な回収等により、一定の成果はあがっているものの、現状は漂着、回収の繰り返しであり、今後も継続的な漂着ごみの回収に取り組んでいかなければなりません。回収、処理経費の対応のため、今後も国、県による財政支援を要望していきます。
　また、漂着ごみ対策の根幹である発止抑制対策に向けた取り組みも必要であり、「日韓市民ビーチクリーンアップ事業」など、国際交流事業等を通じて今後も継続的に普及、啓発に取り組んでいきます。

全体	22
個別	04-05

平成２８年度　[市　民　生　活　部] 目標の成果

課　名	美津島行政サービスセンター

№	項　　目	税の現年収納率の維持

1．組 織 目 標

【 内 容 】
・納税相談等により、滞納者の滞納額拡大防止に努めます。
・申告による適正税額の指導に努めます。
・滞納整理（執行停止）を推進します。

【 指 標 】
平成２８年度現年収納率　９２．００％

2．実績(成果)

平成２８年度現年収納率　９２．６６％（平成２９年５月末現在）

納税相談、訪問接触、訪問徴収等により目標の収納率を上回ることができましたが、昨年度の収納率を上回ることができませんでした。次年度以降は徴収を徹底し、収納率の向上に努めます。

3．評　　価　◯

目標を上回る収納率を達成できました。
現年課税額が大きい滞納者との納付計画相談、自主納付がなされない滞納者への訪問徴収、申告による税額の圧縮等により目標を達成できました。

4．今 後 の 展 開

・納税相談については、国保短期証更新時等において密に接触し、また納税者が納得したうえで履行可能な納税計画を作成します。
・公平・公正な課税を目的に、課税客体の適正な把握と課税の推進に努めます。
・執行停止を推進し、累積滞納額の圧縮を進めます。

全体	23
個別	04-06

平成２８年度　[市　民　生　活　部]　目標の成果

課　名	美津島町行政サービスセンター

№	項　　目	水道料金の収納率向上

１．組　織　目　標

【 内 容 】
水道料金の収納率向上に取り組み、新たな滞納額の縮減に努めます。
また、過年度分の滞納額徴収を積極的に取り組み、滞納額全体の縮減に努めます。

【 指 標 】
現年度分滞納額の縮減　（４００万円以下＊２９年５月末 4,700千円）
過年度分の滞納額徴収　（６００万円以下＊２９年３月末 6,802千円）

２．実績(成果)

現年度分滞納額　　＊２８年度　6,713千円（２９年３月末）
過年度分滞納額　　＊２８年度　5,960千円（２９年３月末）

平成２８年９月に催告書、１２月に給水停止予告書を送付し、取組強化を図りました。また、納付奨励の取組を実施しました。

３．評　　価　△

平成２８年度は、会計統合により出納閉鎖が３月末となったことも影響し、現年度分滞納額が増加となりました。
催告書及び給水停止予告書の発行実施は行いましたが、納付義務者との接触件数及び分納計画の履行件数が伸びず、目標額を達成することができませんでした。

４．今後の展開

納付誓約・分納の取組を継続し、また催告書、給水停止予告書の送付後、給水停止の取組強化を実施します。

全体	24
個別	05-01

平成２８年度 ［福　祉　保　険　部］ 目標の成果

課　名	福　　祉　　課

No.	項　　目	高齢者福祉及び障がい者の生きがいの創出

１．組 織 目 標

【 内 容 】
・高齢者福祉サービス
　高齢者が暮らしやすい環境整備と生活支援の推進を図ります。
・障がい者福祉サービス
　地域において自立した生活が営まれるよう、必要に応じたサービスの提供に努めます。

【 指 標 】
・高齢者福祉サービス
　在宅の高齢者が自立した生活を安心して送ることができるよう、高齢者福祉サービス（高齢者生活支援事業・福祉のまちづくり推進事業）の充実を図ると共に地域の関係者で構成された高齢者虐待防止ネットワークを活用し、高齢者の孤独死「ゼロ」並びに高齢者虐待の発生予防・早期発見に努めてまいります。
・障がい者福祉サービス
　障がい者が地域で生活していくための各種サービスの充実を図ると共に、複雑・多様化する障がい者のニーズに対応できるよう、職員研修等の充実を図り、柔軟に対応できる職員の育成に努め、苦情「ゼロ」を目指します。

２．実績（成果）

・高齢者福祉サービス
　関係機関と連携を密にし、平成28年度において、食の自立支援（配食サービス）延べ34,406回、生きがい活動支援（デイサービス）延べ408回、軽度生活援助（ホームヘルパー）、延べ170時間の助成を行いました。

・障がい者福祉サービス
　複数・多様化する障がい者のニーズに対応するため、平成27年3月に第4期対馬市障害福祉計画を策定し、障がいのある方が安心して生活を営むことができる支援体制づくりを図っております。

３．評　　価　○

　高齢者福祉サービスについては、高齢者と直接対峙する機会を増すことで安否確認を行い、高齢者の孤独死を未然に防ぐことに繋がっている。また、障がい者福祉サービスにおいては、職員の研修会等の参加により、知識と意識を高め、障がいをお持ちの方が安心してサービスが受けられるよう、関係機関と連携を図り、スムーズな事務処理に心がけました。

４．今 後 の 展 開

　高齢化の進展に伴い、一人暮らしの高齢者や高齢者夫婦のみの世帯が増加していくことが推測されることから、高齢者が安心して生活ができる地域づくりを目指し、関係行政機関や市内外の様々な関係施設等との連携体制を図り、サービスの空白地をなくす支援体制の整備に努めてまいります。
　複雑・多様化しつつある障がい者ニーズに対し、柔軟に対応できる庁内体制を整備するため、各種研修の充実等を図り、職員の福祉意識の向上に努めます。

全体	25
個別	05-02

平成２８年度　［福　祉　保　険　部］　目標の成果

課　名	こ　ど　も　未　来　課

No.	項　　目	保育料収納率の向上

１．組　織　目　標

【 内 容 】

対馬市未収入利用者負担額事務取扱要綱及び対馬市子どものための教育・保育に関する利用者負担額の特別徴収に関する規則に基づき滞納処分の強化を図り、各担当者との連携を密に行いながら早めの徴収を念頭に収納率の向上を目指します。

【 指 標 】

現年分収納率　　９９．０％
滞納分収納率　　６５．０％

２．実績（成果）

現年分収納率　　９９．５％
滞納分収納率　　１６．０％

３．評　　価　△

現年分は目標を達成したが、滞納分は大幅に目標を下回りました。

４．今後の展開

対馬市未収入利用者負担額事務取扱要綱及び対馬市子どものための教育・保育に関する利用者負担額の特別徴収に関する規則に基づき滞納処分の強化します。
また、こども未来課を中心に、各担当者との連携を密に行うとともに、戸別訪問等徴収体制の強化を図ります。

全体	26
個別	05-03

平成２８年度 ［福　祉　保　険　部］ 目標の成果

課　名	こ　ど　も　未　来　課

No.	項　　目	ペアリング（職員相互の連携）体制の強化による適正な支援サービスの提供

１．組 織 目 標

【 内 容 】

通常業務におけるチェック体制とバックアップを行うための協力体制の確立を図ります。

〇各業務における問題点や課題を把握し、常に迅速な対応を行うための体制づくりを心がけます。
〇業務内容を熟知し、各担当の役割や連携体制を検討します。
〇常にコミュニケーションを取り、迅速な対応と事務の効率化を図ります。

２．実績（成果）

※ 苦情「ゼロ」に向けた体制づくり
〇担務の見直しを行うことにより、他者の業務への理解と窓口対応の向上を図りました。
〇各行政サービスセンター、住民生活課、福祉保健センターの担当者との情報の共有を随時行うことにより、市民への行政サービスの向上を図りました。
〇パソコンを通して課内の行事予定を共有し、常にコミュニケーションを取ることに心がけました。

３．評　　価　〇

課内のチェックやバックアップ体制の強化はもちろん、他庁舎の担当者との情報の共有を十分とは言えないまでも、ある程度図ることができ、市民へのサービスの向上が図られました。

４．今 後 の 展 開

なお一層のペアリング（職員相互の連携）体制の強化を図り、市民への行政サービスの向上に努めます。

全体	27
個別	06-01

平成２８年度　［健康づくり推進部］　目標の成果

課　名	健　康　増　進　課

No.	項　　目	健康つしま２１計画の推進

１．組織目標

【 内 容 】
生涯を通じて元気に生きるための健康づくりの行動指針や推進方策を示す保健計画「健康つしま２１」に基づき、効果的な活動を展開していきます。

【 指 標 】
・歩いてつくる元気のわキャンペーンの実施
・市内５カ所のウォーキング大会を主催または共催等により実施し、市民の健康づくりに役立てます。参加者総数１０００名を目標とします。
・健康づくり等の情報をCATVや市報等で発信します。

２．実績（成果）

・歩いてつくる元気のわキャンペーンを実施しました。
・ウォーキング大会を計画しましたが２カ所が悪天候のため実施できず参加者は７０％にとどまりました。
・健康づくり等の情報をCATVや市報等で発信しました。

３．評　　価　○

・悪天候のためウォーキング大会が２カ所も中止となりましたが、急遽地域のウォーキング大会に振り替えるなどの工夫により、キャンペーンの周知に努めました。

・健康づくり等の情報をCATVや市報等で発信しました。

４．今後の展開

・平成２９年度は第２次健康つしま２１計画策定の年度にあたるため、２９年度中に計画を策定します。

・歩いてつくる元気のわキャンペーンは継続します。

全体	28
個別	06-02

平成２８年度　［健康づくり推進部］　目標の成果

課　名	健　康　増　進　課

No.	項　　目	慢性腎臓病（CKD）対策

１．組織目標

【 内 容 】
慢性腎臓病（CKD）の発症や進行は糖尿病等を起因とする生活習慣病が強く関わっており、その改善や薬物療法等によって進行を抑えることが可能な疾患であるにも関わらず、その重要性が十分に理解されていません。本年度はハイリスク者の分析を行い、今後の対策を検討します。また、調剤薬局薬剤師による糖尿病性腎症重症化予防事業を実施します

【指標】
・糖尿病受診勧奨レベル者に対するアプローチで、CKDリスク者を減少させます。（レベル者の減少及び治療中断者の防止）
・研修会に参加します。
・CATVや広報等で普及啓発します。（年２回以上）
・糖尿病性腎症重症化予防事業参加希望者に生活習慣改善のための保健指導を実施します。

２．実績（成果）

・糖尿病受診勧奨レベル者に対し、関係資料の同封などによりアプローチができました。
・研修会への参加はできましたが、CATVや広報等への普及啓発にうまくつなぐことができませんでした。
・糖尿病性腎症重症化予防事業参加希望者に生活習慣改善のための保健指導は委託により実施しましたが、人数が集まりませんでした。

３．評　　価　△

・慢性腎臓病のリスクが高い対象に対し、糖尿病受診勧奨レベル者のみならずアプローチをすることができていますが、次のステップとして、糖尿病性腎症重症化予防の市としての取組及び一定期間の継続指導につなげる該当対象者数を増やす検討が必要です。

４．今後の展開

・高リスク者へ健診結果送付に伴う資料提供による周知、特定保健指導該当者への指導における周知を今後も継続します。
・腎症ステージ等ハイリスク者を総合的に検討し、リスクの軽減に努めます。
・調剤薬局薬剤師による糖尿病性腎症重症化予防事業を中止し、医師会や病院と連携した保健指導の体制づくりに努めます。

全体	29
個別	06-03

平成２８年度　［健康づくり推進部］　目標の成果

課　名	健　康　増　進　課

No.	項　　目	市民健診の受診率向上

１．組織目標

【内容】
平成２０年度からスタートした特定健診も9年目を迎えます。対馬市特定健診・保健指導プログラムに基づき、特定健診受診率の向上を図っていきます。
・受診勧奨広報活動を強化して特定健診受診率４０％を実現します。
・生活習慣病の予防に資する講演会を開催します。
・健康推進員を雇用し、未受診者への電話や臨戸訪問等による勧奨を測り、受診率の向上を推進します
・人間ドック助成事業の周知徹底を行い受診結果の取り込みを増やし受診率の向上を図ります。
【指標】
特定健診受診率４０％を目標とします。

２．実績（成果）

・雇用した健康推進員による電話や臨戸訪問を実施し受診勧奨を行いましたが、特定健診受診率は４０％に届きませんでした。
・生活習慣病の予防に資する講演会を開催しました。
・人間ドック助成事業の周知徹底を行い受診率の向上を図りました。

３．評　　価　△

・健康推進員による受診勧奨は、地区組織との連携を図るなど計画的に勧奨しており、広報のみならずイベント時に併せて周知を行っていますが、受診率は伸び悩んでいます。
・生活習慣病予防に関する講演会や広報の発行を行いました。

４．今後の展開

・生活習慣病予防についての広報、講演会を継続します。
・健診受診率４０％を目標に受診率の向上を目指し、生活習慣病の予防に努めます。

全体	30
個別	06-04

平成２８年度　[健康づくり推進部]　目標の成果

課　名	地域包括・医療対策課

No.	項　　目	介護予防自主活動の拡大

１．組織目標

【 内 容 】
今年度から新たに始まった介護予防自主活動助成制度の利用を拡大し、健康寿命を延ばして元気な高齢者を増やすとともに、介護予防に取り組む地域コミュニティづくりの促進及び高齢者の生活機能の向上と地域での自立した生活の維持を図ります。

【 指 標 】
・介護予防自主活動助成制度利用団体数　　１５団体以上

２．実績（成果）

・介護予防自主活動助成制度利用団体数　　２６団体

３．評　　価　◎

関係各課や団体の連携・協力により、目標を大きく上回る利用団体数となりました。

４．今後の展開

平成２８年度は目標を上回る利用団体数を確保することができました。
今後は、利用団体数の増加も必要ですが、その団体が継続して活動していくことが重要であり、そのための支援を継続し、介護予防に取り組む地域コミュニティづくりの促進及び高齢者の生活機能の向上と地域での自立した生活の維持を図ります。

全体	31
個別	07-01

平成２８年度　［農　林　水　産　部］　目標の成果

課　名	農林・しいたけ課

No.	項　　目	對馬椎茸”やる倍”ナバダス計画総合対策支援事業

１．組織目標

【 内 容 】

「對馬椎茸”やる倍”ナバダス計画」に基づき、計画的にしいたけ振興策を図ります。

①生産者のやる気を倍増

価格の安定化(生しいたけ安定価格買取)

②生産量を倍増

作業の効率化(生産団地・省力化機械器具導入、種駒補助制度)

③系統(全農市場)外出荷量を倍増

分業化・安定供給(量、品質、納期)に向けたルールづくり

【 指 標 】

○大型生産団地導入支援　１団地

○しいたけ生産推進　種駒補助1,300万個

○対馬しいたけ販路拡大流通体制構築支援　物産展40回　調理方法開発・発信１式

○生産量　乾４７．９トン　生８２．２トン

２．実績(成果)

○大型生産団地導入支援　１団地　(しいたけ生産組合賀佐協業体)

○しいたけ生産推進　種駒補助1,179万個

○対馬しいたけ販路拡大流通体制構築支援　物産展27回

○生産量　乾３９．３トン　生７３．１トン

３．評　　価　△

生産者の高齢化や後継者不足を理由として種駒補助の個数が指標を下回りましたが、しいたけ生産組合賀佐協業体の施設整備が行われたことにより将来的には植菌数及び生産量が増となる要因もあります。

物産展についても回数は指標を下回りましたが、地道な営業活動により確実に販路は広がっています。

４．今後の展開

引き続き、「對馬椎茸”やる倍”ナバダス計画」に基づき、計画的に対馬しいたけの振興を図っていくこととし、生産量増・消費拡大・販路開拓に向けた取組を行っていきます。

全体	32
個別	07-02

平成２８年度 ［農 林 水 産 部］ 目標の成果

課 名	農林・しいたけ課

No.	項 目	市有林整備の推進による循環型森林資源活用のためのオフセット・クレジット提案事業

１．組 織 目 標

【 内 容 】
【市有林整備】
市有林及び分収林の森林整備を推進します。
【Ｊ－ＶＥＲ制度関係】
市有林間伐による二酸化炭素吸収量のクレジット化と販売促進を行います。また、森林組合と協働し、私有林の整備によるクレジット発行も進めていきます。
【基金の活用】
民有林を含め、森林整備促進のための新たな財源として活用します。
また、森林づくり基本計画及び伐採ガイドラインの実行施策への財源として活用します。

【 指 標 】
【市有林整備】
①森林整備面積：16ha（利用間伐）
②路網整備：Ｌ＝3,000m
【Ｊ－ＶＥＲ制度関係】
①クレジット売買のための企業訪問やイベントへの参加（５回）
②クレジット販売：１００ｔ-C02（収入金：800千円）
③新規契約件数：３件
【基金の活用】
①ツシマヤマネコの森林づくり事業委託料（1,500千円）
②森林環境に配慮した森林整備補助金（2,500千円）

２．実績（成果）

【市有林整備】
①森林整備面積：5.39ha（利用間伐）
②路網整備：Ｌ＝830m
【Ｊ－ＶＥＲ制度関係】
①クレジット売買のための企業訪問やイベントへの参加（２回）
②クレジット販売：37ｔ-C02（収入金：444千円）
③新規契約件数：1件
【基金の活用】
①ツシマヤマネコの森林づくり事業委託料（1,491千円）
②森林環境に配慮した森林整備補助金（149千円）

３．評 価 ×

【市有林整備】対馬市森林整備計画に基づいた間伐を実施しているところですが、間伐後１０年以上経過した所が少なく、また、未間伐の森林は小規模な所が多く目標に達する事ができませんでした。また、分収林も多くあるが、更新契約の関係で施業が出来ない箇所があります。
【Ｊ－ＶＥＲ制度関係】プロバイダー等が主催するマッチングイベントも国の助成制度の見直しにより、今年度は開催されませんでした。
【基金の活用】森林整備補助金の申請は３件あったが少額であったことと、皆伐箇所は８０件以上あっているので伐採ガイドラインの認識・周知不足が考えられます。

４．今後の展開

適切な森林整備を進め森林環境の保全に努めるとともに、Ｊ－クレジット販売を促進するためにも、企業から関心を受けるような基金の活用による対馬市独自の施策を検討します。

全体	33
個別	07-03

平成２８年度 ［ 農 林 水 産 部 ］ 目標の成果

課 名	農林・しいたけ課

No.	項 目	対馬猪鹿活用促進事業

１．組 織 目 標

【 内 容 】

対馬猪鹿活用促進事業で、要請があった地区には直接出向き、防護柵の位置情報、捕獲情報等の有害鳥獣対策の現状を地域住民にフィードバックするため、学習会を民間事業者に委託し実施します。対策の主体は地域であり、行政は対策をサポートするため蓄積された情報を根拠に効果的な体制づくりのサポートに徹します。(行政依存体質の脱却)

被害対策を推進するための防護柵の整備については、新規柵の整備、居住区域内安全対策、家庭菜園等防護柵と、事業メニューが多く市民の理解度が低い事から、学習会開催時に被害対策についての正確な情報提供に努めます。

また、有害鳥獣の資源活用として食肉加工品や皮革製品等に取り組み、食べて美味しい、使って楽しい等、市民が有害鳥獣対策に関わるきっかけをポジティブなイメージにするため、普及啓発活動を実施します。特に学校給食での食材利用や市内飲食店での活用を促進し、地域食材としての食育と担い手育成に繋げていきます。

【 指 標 】

①地域主導の被害対策推進地区増加数：5地区
②地区捕獲隊増加数：5地区
③「イノシシ・シカに関する地区学習会」開催：5地区
④有害鳥獣利活用及び人材・担い手（対馬の子供達）育成
　学校給食食材利用校：1校
　総合的学習「有害鳥獣対策」開催：1校
⑤各種防護対策の実施

２．実績(成果)

①地域主導の被害対策推進地区増加数：3地区
(居住区域内安全対策として防護柵を集落周辺に設置)
②地区捕獲隊増加数：0地区
③「農業相談会及び防護柵要望受付」開催：29箇所
※農業相談会ではなく被害対策サポート事業として島内全域に随時職員が出向き対応
④ワークショップ開催：1回(対馬いとなみ協議会主催：10/18　約50名参加)
⑤厳原中学校1年生約60名対象に有害鳥獣対策の授業実施(合計10時間)
　イノシシソーセージづくり教室（対馬市民　約20名参加）
　レザークラフト講座（対馬市民、市職員等）
　資源活用推進（衛生的な解体・加工実施、皮革を活用した普及啓発活動実施）
⑤各種防護対策の実施(国交付金、市単独補助事業を活用)

３．評 価 ○

地区捕獲隊の推進については説明会等を行ったが捕獲隊の結成まで結びつきませんでした。

今後も継続的な活動を行い、防護と捕獲を推進していきます。

４．今 後 の 展 開

捕獲隊については、地域が主体となり、農地や居住区域等を守っていけるように推進を行い、行政主体ではなく、あくまで地域が主役となるように推進を行います。

資源活用については、多くの市民を巻き込んだ有害鳥獣対策を促進するためのツールとして、積極的に取り組み、さらには、対馬の新たな産業、雇用創出に繋がり、地域を護る事がお金になる仕組みを構築していきます。

全体	34
個別	07-04

平成２８年度　［農　林　水　産　部］　目標の成果

課　名	農林・しいたけ課

No.	項　　目	学校給食地場農林水産物導入事業

１．組織目標

【 内 容 】
学校給食での地場農林水産物利用に係る食材供給について、特産・推奨品である椎茸・あか牛・野菜及び水産物購入への支援を行います。

【 指 標 】
農林水産物の需給システムを構築します。

学校給食に地場産品を使用する割合：重量比

・米	年40回	（補助限度回数）
・しいたけ	100%	
・野菜 ※	30%	※野菜は、しいたけ・果物を除くすべての野菜
うち、アスパラガス	60%	
たまねぎ	40%	
じゃがいも	40%	
・海藻類	年30回以上	
・魚介類	年35回以上	

２．実績（成果）

需給システム構築のため、農協、振興局、給食栄養士及び市で協議を行いました。

学校給食に地場産品を使用する割合：重量比

・米	年54.6回	
・しいたけ	89.8%	
・野菜 ※	15.6%	※野菜は、しいたけ・果物を除くすべての野菜
うち、アスパラガス	67.7%	
たまねぎ	27.4%	
じゃがいも	25.1%	
・海藻類	年33.5回	
・魚介類	年46回	

３．評　　価　△

海藻類、魚介類については目標を達成し、前年よりも使用回数が増加しています。また、アスパラガスについても同様に目標達成していますが、野菜全体としての使用割合はまだ少ない状態です。

４．今後の展開

地場産野菜の使用割合を高めるため、農家や農協に協力を仰ぎながら、安定して供給出来る体制を整えて、目標達成に向けて取り組みます。

全体	35
個別	07-05

平成２８年度　［農　林　水　産　部］　目標の成果

課　名	農林・しいたけ課

No.	項　　目	対馬の農林水産業担い手・『林業女子』育成及び『人財』発掘事業

１．組織目標

【 内 容 】
市の基幹産業である漁業、林業等において、生産者の高齢化及び後継者不足により新規の担い手確保が急務です。農林産業分野の事業者、漁協等の団体、市が一体となって新規就業のための移住相談会への参加及び合同面談会を開催し、就業意向者と事業者側のマッチングの機会及び新規参入者向けの説明会などを実施します。

【 指 標 】
○新規林業従事者５名
○新規漁業従事者３名
計８名

２．実績（成果）

○事業検討会及び採用者向け研修会　３回開催
○移住相談会参加及びお盆時季合同企業面談会開催　１１回参加及び１回開催
○新規漁業就業者向けチラシ・ポスター制作及び新規林業従事者勧誘タペストリー制作
○新規農林水産業従事者　３３名（うち農業２名、森林整備業１４名、製材加工業８名、水産業９名）（うちＩターン８名、Ｕターン７名）

３．評　　価　◯

○指標を大きく上回る新規農林水産業従事者の確保及び育成ができました。引き続き、移住相談会や企業面談会等を通して、企業と就業希望者とのマッチングを図り、担い手・後継者の育成及び確保に努めます。

４．今後の展開

本事業を継続して推進していきますが、ホームページ等を開設していないなど情報発信できていない参加企業が大半であることから、島外対策として市内参加企業の情報発信に努めます。
企業面談会等に参加する企業へ、登録無料の長崎県が運営する就職応援サイト「Ｎなび」や長崎インターンシップ推進協議会への登録を参加企業へ働きかけます。

全体	36
個別	07-06

平成２８年度　［農　林　水　産　部］　目標の成果

課　名	水　　産　　課

No.	項　　目	魚礁設置事業

１．組 織 目 標

【 内 容 】
・魚礁を地先漁業権内に設置し、漁業生産量の確保を図ります。近場の漁場を整備することにより漁業者の高齢化にも配慮した環境を整えます。

【 指 標 】
・魚礁9,000空㎥（安神・久和・阿連・高浜：6,000空㎥（27繰）、豆酘・瀬：3,000空㎥（28））

２．実績（成果）

・安神工区　1,513空㎥
・久和工区　1,513空㎥
・高浜工区　1,723空㎥
・阿連工区　1,591空㎥
・豆酘工区　1,589空㎥
・瀬工区　　1,879空㎥

３．評　　価　◯

・Ｈ２７年度繰越事業分及びＨ２８年度事業分とも年度内契約・施工し完了しました。

４．今 後 の 展 開

・平成３０年度以降の長期５ヶ年計画（２１ヶ所）を県に申請しており、許可後は速やかに着工できるよう取り組みます。

全体	37
個別	07-07

平成２８年度　［農　林　水　産　部］　目標の成果

課　名	水　　産　　課

No.	項　　目	水産物の輸送費補助

１．組　織　目　標

【 内 容 】
・水産物を島外へ出荷する際の輸送コストに係る経費を財政的に支援することで、漁業者の所得安定及び減少に歯止めをかけ、漁業の発展へ繋げます。

【 指 標 】
・１８１万９千箱分に対して支援を行います。

２．実績（成果）

・１３７万７千箱に対しての支援を実施しました。

３．評　　価　△

・昨年度は対前年比１．８７％増と予想を上回りましたが、今年度はヨコワが豊漁すぎて総枠での規制域に達し、漁獲できない時期が数ヶ月あり、加えて主力のイカ漁も不振続きとなり、目標１８１万９千箱分に対して１３７万７千箱分と２４．３％と大幅に下回りましたが、漁業者の負担軽減に努めました。

４．今後の展開

・平成２９年度は補助制度の変更に伴い、通常の海上輸送に加え、空輸輸送・餌の海上移入の三つの助成及び補助率のアップにより、漁業者の意欲向上につなげ、平成２８年度以上の実績を見込んでいます。

全体	38
個別	07-08

平成２８年度　［農　林　水　産　部］　目標の成果

課　名	水　　産　　課

No.	項　　目	「海洋保護区」の設定

１．組 織 目 標

【 内 容 】
水産資源の持続的利用と伝統的な漁業の継承を図るために「海洋保護区」の設定を目指します。設定推進協議会は、科学的根拠に基づく科学委員会の答申を検討し、区域設定や区域内の資源管理計画を策定し、国や県などに働きかけて対馬らしい海洋保護区の設定を目指します。

【 指 標 】
① 魚種・漁法毎の資源管理計画を作成します。
② 「（仮称）海洋保護区しまうみ運営規範」の作成に向け、情報収集・整理等を行います。
③ 海洋保護区ＰＲ番組を放送するほか、科学委員会報告書概要版、海洋保護区リーフレットを配布します。
④ 九州大学等外部研究機関との連携を深めます。
⑤ 資源管理活動のデータ化を行います。

２．実績（成果）

① 水産資源管理計画（案）を作成しました。
② 「対馬海洋保護区しまうみ運営規範（案）」の練り上げ作業を行いました（運営規範を管理計画に名称変更）。
③ 海洋保護区ＰＲ番組を対馬市ＣＡＴＶで放映しました。
④ 九州大学等外部研究機関と連携し、トレーサビリティの実証実験等に取り組みました。
⑤ 資源管理活動のデータ化には至りませんでした。

３．評　　価　△

対馬版海洋保護区設定に向け、海洋保護区設定推進協議会において、「対馬海洋保護区しまうみ運営規範（第一次案）」の練り上げ作業を行いました（運営規範を管理計画に名称変更）。また、設定推進協議会の中に「磯資源作業部会」と「藻場再生作業部会」の２部会を設置しました。
普及啓発活動としては、対馬市ＣＡＴＶによるＰＲ番組の放送や各種イベント・会議においてリーフレットを配布しました。
そのほか、藻場再生の取組の一環として、食害魚一斉駆除に関するアンケートを実施しました。

４．今 後 の 展 開

引き続き「対馬海洋保護区管理計画案」の練り上げ作業を行うとともに、海洋保護区設定に向け、まずは導入を実現するため、共同漁業権の海域において磯資源の適正な管理や藻場再生の取組など、できることから取り組んでいきます。また、対馬の海の重要性や海洋保護区設定の必要性について、広く市内外にＰＲします。

全体	39
個別	07-09

平成２８年度 ［農　林　水　産　部］　目標の成果

課　名	基　盤　整　備　課

No.	項　　目	基盤整備工事の早期発注、早期完成

１．組 織 目 標

【 内 容 】
公共工事の早期発注、完成を図るため、12月末までに委託業務完了100%を目指します。
事業効果の早期発現を図るため、12月末までに工事執行100%を目指します。

【 指 標 】

平成28年12月	委託業務完了予定額	100%目標（86百万円）
平成28年12月	委託業務完了予定件数	委託　11件
平成28年12月	工事執行予定額	100%目標1,665百万円）
平成28年12月	工事執行予定件数	工事　27件

２．実績（成果）

平成28年12月	委託業務完了額	実績額	125百万円中、42百万円　33.6%
平成28年12月	委託業務完了件数	実績件数	24件中、10件　41.7%
平成28年12月	工事執行額	実績額	1,678百万円中、1,361百万円　81.1%
平成28年12月	工事執行件数	実績件数	32件中、24件　75.0%

漁港事業においては、新規着手工種が多数発生したことにより、設計協議に日数を要し進捗が遅れました。また、工事については諸手続きの遅延や、同一工種における前年度繰越工事の工期制約を受けたため執行が遅延しましたが、繰越工事は縮減傾向にあります。
林道事業については、新規路線の設計協議に日数を要したため、工事発注時期が遅れ、目標を達成することができませんでした。

３．評　　価　△

早期着工については、国の早着認可制度等を利用して行いましたが、新規着手工種の許認可事務及び、測量、調査、設計等の委託業務や地元協議に時間を要した事により、本工事着手が遅れ目標100％達成が出来ませんでした。

４．今 後 の 展 開

未着手分の早期着工及び新規工種の断面決定を行い、計画的に各種事務処理手続きを完了させ、工事の早期完成を目指します。
また、地元要望に迅速に対応するため、関係者と連携を取りながら適切かつ有効な事業計画の立案に努めます。

全体	40
個別	08-01

平成２８年度　［建　　設　　部］　目標の成果

課　名	管　　理　　課

No.	項　　目	市営住宅使用料未収金の縮小

１．組　織　目　標

【 内 容 】
市営住宅家賃滞納整理事務要綱に基づき未収額の縮小に努めます。

【 指 標 】
現年分　９８．５０％
滞納分　４２．２５％
計　　９０．７１％

２．実績（成果）

市営住宅使用料の徴収率
現年分　９６．０２％
滞納分　１６．１４％
計　　８３．９７％

市営住宅使用料

	現年分	滞納分	合計　（単位：円）
調定額（現年・過年）	135,151,900	23,991,880	159,143,780
収入実績	129,767,700	3,871,800	133,639,500
徴収率	96.02%	16.14%	83.97%

３．評　　価　△

・滞納者に対し、文書による督促事務を行い、納付依頼を実施致しました。また、個別訪問にて徴収も実施しております。
・督促文書送付で未払い者に対し、訪問・文面による納付確約又は連帯保証人へ納付指導を行いました。
　以上の事務の徹底により目標数値を目指しましたが、第一次産業の不漁等により納付約束の不履行が顕著となり、目標徴収率を下回りました。

４．今 後 の 展 開

・引き続き、年間を通しての対面による納付依頼を強化し納付対策に取り組みます。

全体	41
個別	08-02

平成２８年度 ［ 建 設 部 ］ 目標の成果

課 名	建 設 課

No.	項 目	公共工事の早期発注、早期完成に努めます。

１．組 織 目 標

【 内 容 】
公共工事の早期着工に努めることにより、市の経済流通の初動を促進し、市民生活の活性化とともに、早期完成によって市民の生活基盤の底上げを図ります。

【 指 標 】
平成28年度12月末設計書作成件数及び予定額（測量・調査・設計）
7 件　　35 百万円　　《100％目標》
平成28年度12月末設計書作成件数及び予定額（工事）
10 件　　453 百万円　　《100％目標》

２．実績（成果）

（測量・調査・設計）
平成28年度12月末設計書作成件数　　9 件
平成28年度12月末発注額　　23 百万円

（工事）
平成28年度12月末設計書作成件数　　12 件
平成28年度12月末発注額　　331 百万円

※災害発生件数　道路2件、河川4件　　査定額　95 百万円

３．評 価 ◎

組織目標に掲げた設計書作成件数については、委託及び工事とも、目標以上の成果をあげることができました。発注額については、委託・工事とも、僅かではあるが目標額を下回ったが、７月と９月に発生した災害（６件）及び国の補正（年度内発注：委託９件54百万円、工事６件152百万円）への対応を考慮すれば、目標を上回る成果であったと考えます。また、繰越事業費ついても、国の補正分が含まれながら前年より減少しています。

４．今 後 の 展 開

公共工事の早期着工に努めることにより、市の経済流通の初動を促進し、市民生活の活性化とともに、早期完成によって、市民の生活基盤の底上げを図るものであることから、今後におきましても早期発注、早期完成に努めます。

全体	42
個別	09-01

平成２８年度　［水　道　局　（　部　）］　目標の成果

課　名	水　　道　　課

No.	項　　目	水道事業及び簡易水道事業の経営統合

１．組　織　目　標

【 内 容 】
「対馬市水道ビジョン」の計画に基づき、平成28年度末に水道事業及び簡易水道事業を経営統合することとし、今年度は「簡易水道事業の地方公営企業法適化及び経営戦略の策定」「統合後の水道料金見直しのための水道料金等検討委員会の開催」「水道事業統合のための国への認可申請」に取り組み、水道事業の更なる経営改善に努めていきます。

【 指 標 】
①簡易水道事業の地方公営企業法適化及び経営戦略の策定
②統合後の水道料金見直しのための水道料金等検討委員会の開催
③水道事業統合のための国への認可申請

２．実績（成果）

①簡易水道事業の地方公営企業法適化及び経営戦略の策定
　本年３月に「対馬市水道事業経営戦略プラン」を策定しました。
②統合後の水道料金見直しのための水道料金等検討委員会の開催
　検討委員会を４回開催し、料金改定を行いました。
③水道事業統合のための国への認可申請
　事業統合に向け認可申請を行い、３月に経営認可手続きを完了しました。

３．評　　価　◯

本年４月１日付で、「対馬市水道事業」と「対馬市簡易水道事業」の経営を統合し、これまで２つの異なる料金体系で運営されてきた水道事業の料金格差を是正した料金改定を行い、水道料金の統一を図ることができました。

４．今 後 の 展 開

本年３月に策定した水道事業の中長期的マスタープランである「対馬市水道事業経営戦略プラン」を基に目標管理と経営の効率化を進め、健全な事業運営に努めてまいります。

全体	43
個別	09-02

平成２８年度　［水　道　局　（　部　）］　目標の成果

課　名	水　　道　　課

No.	項　　目	水道料金の収納率向上

１．組　織　目　標

【 内 容 】
経営の効率化と健全な事業運営を図るためには、水道料金の収納率向上は喫緊の課題であり、今年度も前年度に引き続き、新規滞納者の発生予防、納付確約（分納）の取り組み強化、給水停止の強化に取り組みます。

【 指 標 】
収納率（現年度分）
・対馬市水道事業　　96．5%　（前年度目標 96．5%）
・対馬市簡易水道事業　97．5%　（前年度目標 98．5%）

２．実績（成果）

収納率

		平成28年度	平成27年度	対前年度比
対馬市水道事業	現年度分	95．99%	95．34%	0．65%
	過年度分	53．68%	62．16%	△8．48%
	計	93．24%	93．47%	△0．21%
対馬市簡易水道事業	現年度分	97．50%	98．38%	△0．88%
	過年度分	32．63%	29．16%	3．47%
	計	95．31%	95．53%	△0．22%

３．評　　価　△

滞納者に対し、定期的に督促及び催告を実施し、また、給水停止等の措置を講じましたが、水道事業については前年度を0．65%上回ることができましたが、目標に0．50%到達することができませんでした。また、簡易水道事業については前年度を0．88%下回りましたが、目標を0．01%上回り達成することができました。

４．今 後 の 展 開

今後も、滞納者に対しての督促、催告等の納付指導を継続して行い、また、長期（3ヶ月以上）の滞納者に対しては、給水停止の措置を強化し、納付意識の高揚に努めていきます。

全体	44
個別	09-03

平成２８年度　［水　道　局　（　部　）］　目標の成果

課　名	水　　道　　課

No.	項　　目	水道事業の有収率向上

１．組　織　目　標

【 内　容 】
有収率の向上は、水道事業の経営安定化のためには、必要不可欠な問題となっています。今後、年次的に配水管等の漏水対策を行い、有収率の向上に努めて行きます。

【 指　標 】
有収率
・平成28年度有収率　　68．5%以上
・平成32年度有収率　　70．0%以上

２．実績（成果）

有収率

平成28年度	平成27年度	対前年度比
69.22%	67.90%	1．32%

３．評　　価　◯

配水管等の漏水対策や老朽管の布設換えを行った結果、前年度を1．32%上回り、目標に対しても0．72%上回ることで目標を達成をすることができました。

４．今後の展開

今後も、年次的に配水管等の漏水対策を実施し、有収率の向上に努め、平成32年度有収率70%以上を目指します。

全体	45
個別	10-01

平成２８年度　［中　対　馬　振　興　部］　目標の成果

課　名	地　域　振　興　課

No.	項　　目	イベントと連携した体験型観光の推進

１．組　織　目　標

【 内 容 】
豊玉管内で開催されるイベント（シーカヤック大会）と連携した体験型観光を推進し、浅茅湾をはじめ、和多都美神社などの観光資源の活用を促進します。

【 指 標 】
シーカヤック大会参加者数１００名

２．実績（成果）

平成２８年８月２１日（日）にシーカヤック大会が開催され、地域振興課もスタッフとして企画・準備・運営と、地域住民で結成した実行委員会とともに参加しました。
実行委員会を中心に地域振興課としても本イベントのＰＲ、参加の呼びかけを積極的に行い、レース参加者だけでなく、一般の方を対象にしたシーカヤック体験をメニューに取り入れるなどした結果、目標を上回る１３６人の参加となりました。

３．評　　価　◎

今回のイベントにおいては、今までレース参加者だけに実施していたシーカヤック体験を、一般の方にも体験していただけるメニューを取り入れたこと、また大会開催日についても、他のイベントに重ならない日に開催できたことが、目標達成の大きな要因と思われます。（Ｈ２７は夏休みの最終日）
今後も、１００人前後の大会規模を維持できるよう地域と連携し、企画・運営に努めていきます。

４．今後の展開

潮位の関係で大会日程が限定されますが、今後もシーカヤックを通して地域の親睦を深めるとともに、和多都美神社や浅茅湾という観光資源を積極的にＰＲし、豊玉町ならではのイベントを目指します。
また、地域住民だけでなく、島外からの参加者数が増えるようなＰＲを行い、体験型観光を推進していきます。

全体	46
個別	10-02

平成２８年度　［中　対　馬　振　興　部］　目標の成果

課　名	住　民　生　活　課

No.	項　　目	適正な窓口業務、管轄地区内の環境美化

１．組　織　目　標

【 内 容 】
①窓口業務における市民の満足度の向上を図ります。

②不法投棄防止の啓発に努めます。

【 指 標 】
①苦情件数「ゼロ」を目指します。

②不法投棄箇所数を削減します。

２．実績（成果）

①「あいさつ」の励行、親切・丁寧な窓口対応については、実行できました。

②定期的に管轄地区内を巡回し、不法投棄も発見したが、所有者の特定まで至りませんでした。

３．評　　価　◯

①概ね実行できました。

②巡回をすることで、不法投棄の抑制につながりました。

４．今 後 の 展 開

①業務及び電話での対応について、窓口苦情件数「ゼロ」を目指します。

②今後も定期的に巡回を行い、不法投棄の根絶に努めます。

全体	47
個別	10-03

平成２８年度　［中　対　馬　振　興　部］　目標の成果

課　名	住　民　生　活　課

No.	項　　目	税・水道料金の納付促進

１．組　織　目　標

【 内 容 】
①税の徴収率向上
②水道料金の徴収率の向上

【 指 標 】
①税の現年度徴収率を９５％以上に、滞納分徴収率を１０％以上にします。
②水道料金に現年分徴収率を９９％以上、未収金額を８０万円以下にします。

２．実績（成果）

①税の徴収率を上げるため、電話や文書、また未納者宅を訪問し、催促及び納付指導を行った結果、現年課税分徴収率は達成できませんでしたが、滞納分徴収率は達成できました。
（現年度分徴収実績率：９４．８０％、滞納分実績率：１１．２３％）

②水道の徴収率を上げるため、電話や文書、また未納者宅を訪問し、催促及び納付指導を行いましたが、目標指標を達成する事ができませんでした。
（現年度分徴収実績率：９８．５８％、未収金実績額：９７４，１１０円）

３．評　　価　△

数値目標である４項目中、１項目しか達成ができませんでしたが、催促、納税相談等を昨年以上に実施し、滞納分の完納者を多く出すことができました。

４．今後の展開

今後も徴収率向上（特に現年分）に努め、未収金に減額を目指します。

全体	48
個別	10-04

平成２８年度　［中　対　馬　振　興　部］　目標の成果

課　名	峰行政サービスセンター

No.	項　　目	快適な窓口サービスと電話対応の向上

１．組　織　目　標

【 内 容 】
職員相互の情報の共有化を図り、市民のニーズに対し広い間口体制を構築し、主担当が不在でも対応できる体制づくりと、電話対応の向上を目指します。

【 指 標 】
・窓口対応の適正・迅速化を図ります。
・窓口及び電話対応に対する「苦情ゼロ」を目指します。

２．実績（成果）

来庁されるお客様に満足いただけるよう、全職員が協力し、笑顔であいさつ、迅速丁寧な対応に心がけ「苦情ゼロ」のサービスが提供できました。

３．評　　価　○

毎週月曜日のミーティングやＢＥＡＭなどの活用により職員相互の情報の共有化及び協力体制の構築を図ることができました。
また、窓口・電話対応の向上に努めたことにより、大きな苦情は寄せられませんでした。

４．今後の展開

窓口対応は、地域住民からのニーズに応える基本的なことであり、今後も引き続き、笑顔であいさつ、迅速丁寧な対応、窓口の美化に努め、お客様の満足いただける快適なサービス環境を目指します。

全体	49
個別	11-01

平成２８年度　［上　対　馬　振　興　部］　目標の成果

課　名	地　域　振　興　課

No.	項　　目	地域イベントを活かした交流人口の拡大

１．組　織　目　標

【 内　容 】
○国境マラソンＩＮ対馬の開催
本年で２０回目の節目を迎える「国境マラソンＩＮ対馬」をより良いイベントとするため、職員間の連携を強化し、地元ボランティアスタッフと協力して、大会の盛会を目指します。

【 指　標 】
大会参加者数：１，４００名
ボランティアスタッフ：３５０名

２．実績（成果）

大会参加者数：１，４１６名
ボランティアスタッフ：４０３名

３．評　　価　◯

大会参加者、ボランティアスタッフの目標を達成し、２０回目の記念イベント（航空自衛隊西部航空音楽隊及び対馬市民吹奏楽団の演奏）として前夜祭も開催。また大会当日は、航空自衛隊の協力により訓練用戦闘機（Ｔ－４）に開会式を盛り上げていただくなど、本大会を成功させることができました。

４．今後の展開

今後も対馬市のスポーツ一大イベントである「国境マラソンＩＮ対馬」を継続して開催し、対馬市のＰＲ及び交流人口の拡大を目指します。

全体	50
個別	11-02

平成２８年度　［上　対　馬　振　興　部］　目標の成果

課　名	地　域　振　興　課

No.	項　　目	対馬の自然を活かした観光地の整備

１．組　織　目　標

【 内　容 】
○三宇田地域整備方針の検討
対馬の豊かな自然を活かした観光地の整備を行い、観光客の満足度を高め、交流人口の増加を目指します。

【 指　標 】
　ホテル誘致が決定し、観光客の増加が見込まれる三宇田地域の整備方針を決定します。

２．実績（成果）

　関係機関と協議し、三宇田キャンプ場については、整備方針（案）の段階までできていますが、その他（海水浴場、周辺施設）については、現在も協議中であり結論には達していません。

３．評　　価　△

　三宇田キャンプ場の整備方針については、ある程度の方向性が決まってきたが、海水浴場、周辺施設については、今後も関係機関と協議を重ね整備方針を決定していく必要があります。

４．今後の展開

　県所有の自然公園施設部分を譲り受け、観光客のニーズに対応した整備が行えるよう今後も関係機関と協議を重ね、整備方針の決定を目指します。

全体	51
個別	11-03

平成２８年度　［上　対　馬　振　興　部］　目標の成果

課　名	住　民　生　活　課

No.	項　　目	窓口サービスの適正・迅速化と電話対応の向上

１．組　織　目　標

【 内　容 】
職員相互間の情報共有化を図り、市民ニーズに対し広い間口体制を構築し、主担当が不在でも市民ニーズに応えられる体制づくりと、窓口・電話対応の向上を目指します。

【 指　標 】
・窓口対応の適正化・迅速化を図る。（平均１分間の短縮を図る。）
・窓口・電話対応に対する苦情「ゼロ」を目指します。

２．実績（成果）

窓口・電話対応においては、全職員が協力し迅速で親切・丁寧な対応を心がけました。

３．評　　価　◯

職員相互間の情報の共有化及び協力体制の構築を図ることができました。
また、窓口・電話対応の向上に努めたことにより、大きな苦情は寄せられませんでした。

４．今後の展開

地域住民からのニーズに応えるため、引き続き迅速丁寧な窓口及び電話対応の向上に努め、親しみやすい職場環境の構築を目指します。

全体	52
個別	11-04

平成２８年度　［上　対　馬　振　興　部］　目標の成果

課　名	北 部 建 設 事 務 所

No.	項　　目	公共工事の早期発注、早期完成

１．組　織　目　標

【 内　容 】
公共工事の早期着工に努めることにより、市の経済流通の初動を促進し、市民生活の活性化とともに、早期完成によって市民の生活基盤の底上げを図ります。

【 指　標 】
平成28年度12月末設計書作成件数及び予定額（測量・調査・設計）

総務費	6件	69百万円
農林水産業費	7件	50百万円
土木費	10件	90百万円

平成28年度12月末設計書作成件数及び予定額（工事）

農林水産業費	2件	28百万円
土木費	8件	204百万円

２．実績（成果）

（測量・調査・設計）
平成28年度12月末設計書作成件数及び発注額

総務費	9件	59百万円
農林水産業費	6件	108百万円
土木費	8件	45百万円

（工事関係）
平成28年度12月末設計書作成件数及び発注額

農林水産業費	2件	24百万円
土木費	8件	181百万円

３．評　　価　◯

組織目標に掲げた設計書作成件数については、12月末までに設計書作成及び起工を達成出来ましたが、市道1路線について、用地及び補償費において、一部移転登記に時間を要し、本工事発注が遅れました。

４．今後の展開

用地及び補償関係の早期完成を図り、本工事の早期着工及び完成に努めます。

全体	53
個別	11-05

平成２８年度　［上　対　馬　振　興　部］　目標の成果

課　名	上県行政サービスセンター

No.	項　　目	観光客の誘致による活性化

１．組　織　目　標

【 内　容 】
日本在来馬８種の１つである希少性の高い対州馬を観光資源として活用し、観客への発信・ＰＲの強化を図り、市内外からの交流人口の拡大を図ります。

【 指　標 】
馬事公園の交流人口の拡大目標数値　　年間　５，０００人

２．実績（成果）

・年度内に対州馬保存計画を策定することができました。
・馬事公園での年間来場者数は目標を上回ることができませんでした。
　主要因は悪天候のため初午祭の中止により、年間来場者数に影響が出たものと考察されます。しかし、夏休み期間においては、前年を上回る実績を残すことができました。
　また、啓蒙啓発活動においては、テレビ取材や島外イベントにも参加し、対州馬とのふれあい事業によりＰＲ活動を実施しました。

３．評　　価　△

　対州馬保存計画の策定により、年次計画を立て対州馬の保存と活用策を具体的に取り組める環境を整備しました。
　福岡、佐世保等の島外イベントの中で、日本在来８馬種の１種である対州馬の乗馬体験、触れあいイベント等を通じ、対州馬の魅力、対馬の稀少動物について県内外に発信することができました。
　また、市内イベントにも積極的に参加し、市民と対州馬との触れあい場を積極的に提供し、対州馬の魅力を体験していただくことで、マスメディアに取り上げられる機会が格段に増え、新聞、テレビ等による対州馬及び対馬の魅力を恒常的にＰＲする環境が整ってきました。

４．今後の展開

　対州馬の保存活用は、「対州馬保存計画」に基づき関係機関、民間団体、地域ボランティア等と連携し、事業実施を推進していきます。
　また、日本在来馬の中でも希少な対州馬と触れあいの場を提供することで、対州馬の魅力を通じ、対馬の稀少動物の魅力及び対馬の魅力を併せてＰＲし体験型観光客の増大を推進します。

全体	54
個別	11-06

平成２８年度　［上　対　馬　振　興　部］　目標の成果

課　名	上県行政サービスセンター

No.	項　　目	窓口及び電話対応の向上

１．組　織　目　標

【 内 容 】
役所の雰囲気で、来庁者が受ける印象は随分違ってくると思います。
都会の役所とは違った田舎の自治体らしく、形式ばったものではなく、柔らかい雰囲気づくりに心がけ、来庁者に親しみやすい挨拶と迅速な対応を図ります。
また、電話照会者に対しては顔が見えないので、相手の立場に立った、親しみやすく分かりやすい、親切丁寧な対応の充実を図ります。

【 指 標 】
窓口、電話対応に対する苦情件数「ゼロ」

２．実績（成果）

上県行政サービスセンター職員全員が、来庁者に親しみやすい挨拶、声かけ、お客様を極力待たせないことを日頃から心がけ対応を行いました。
また、電話対応においても同様の対応を行いました。

３．評　　価　◯

窓口対応は、来庁者に対し親しみやすい挨拶、声かけ及び極力お客様をお待たせしない対応の実践、電話対応においては相手の立場に立った分かりやすく、親切丁寧な実践できました。
また、窓口及び電話対応の向上を常に心がけることにより、職員の住民サービスの基本姿勢の向上、住民に親しみやすい組織づくりができたと考えています。

４．今後の展開

窓口及び電話対応の向上は、住民に最も身近な行政機関であることから、引き続き組織目標として掲げ、住民に親しみやすく、苦情のない組織づくりを目指していきます。

全体	55
個別	11-07

平成２８年度　［上　対　馬　振　興　部］　目標の成果

課　名	上県行政サービスセンター

No.	項　　目	地域イベント・ボランティア活動への参加

１．組　織　目　標

【 内 容 】
地域で開催されるイベントやボランティア活動に積極的に参加し、市民協働を推進します。

【 指 標 】
職員の参加率「５０％」を目標とします。

２．実績（成果）

地元開催のあじさい祭り・パラグライディング大会、上対馬で開催の国境マラソンＩＮ対馬、ひとつばたご祭り等に上県行政サービスセンター職員の殆どがボランティアとして参加し、市民協働の地域づくりの一翼を担いました。

・正職員の参加率　１００％

３．評　　価　◯

上県行政サービスセンターの殆どの職員が地域で開催されたイベントにボランティアとして参加し、地域住民と一体となりイベントを支え市民協働の地域づくりの重要性を認識することができました。

４．今後の展開

引き続き組織目標として掲げ市民協働の地域づくりを推進することを目指していきます。

全体	56
個別	11-08

平成２８年度 ［上 対 馬 振 興 部］ 目標の成果

課　名	上県行政サービスセンター

No.	項　　目	庁舎内外の清掃の徹底

１．組 織 目 標

【 内 容 】
・庁舎内の週１回の清掃の徹底
・週１回の庁舎内清掃に加え、毎月月初めの木曜日にセンター敷地並びに周辺の清掃、除草の徹底
・ゴミや汚れを見つけた時の「即清掃」の徹底
・庁舎内から出るゴミの減量化と分別の徹底

【 指 標 】
・庁舎内の週１回の清掃
・事業系ごみとして処理される庁舎内ごみに関し、予定廃棄量を少しでも下回るよう、ごみの「減量化」に取り組みます。
・分別を徹底し、資源ごみとします。
・月１回の敷地並びに周辺の清掃・除草

２．実績（成果）

庁舎内の週１回の清掃及び月１回の敷地周辺の清掃・除草は目標どおり達成できました。
ゴミの減量化については、ミスプリント紙の裏紙としての利用、封筒の再利用等で減量化を図ることができました。
また、資源ゴミの分別についても、カン・ビン・段ボール等の分別は目標どおり達成できました。

３．評　　価　◯

庁舎内及び庁舎周辺の環境美化については、来庁者をはじめ周辺住民の市役所に対する印象に大きく影響を与えることから、今後さらに職員の意識向上を図っていきます。

４．今 後 の 展 開

引き続き組織目標として掲げ、取組内容を強化し、庁舎内外環境美化を一層推進できるよう目指していきます。

全体	57
個別	12-01

平成２８年度 ［消　　防　　本　　部］ 目標の成果

課　名	総　　務　　課

No.	項　　目	地区消防団員の増員、車両の適正配置及び団員の安全装備品配備

１．組 織 目 標

【 内 容 】
消防団員の増員、消防団車両の適正配置及び消防団員の安全装備品の配備を行います。

【 指 標 】
●各地区消防団でそれぞれ目標値を掲げ団員の増員を図ります。
●団員安全装備品配備計画を継続します。
（安全半長靴・耐刃性手袋・ライフジャケット・ヘッドライト）

２．実績（成果）

●団員増強
機能別消防団員の増員に伴い昨年度より消防団員は５人増加
●団員安全装備品配備計画
安全半長靴７００・耐刃性手袋９００・ライフジャケット４００・ヘッドライト３００を配備

３．評　　価　△

消防団員の増加については基本的消防団員数は減となったものの機能的消防団員の加入に伴い実員数が５人増加となった。
消防団員の安全装備品配備について、平成２８年度は計画通り配置、配備ができました。

４．今 後 の 展 開

平成２９年度以降も引き続き計画に基づいて配置、配備を進めていきます。

全体	58
個別	12-02

平成２８年度 ［消　　防　　本　　部］ 目標の成果

課　名	警　　防　　課

No.	項　　目	応急手当の普及啓発活動

１．組 織 目 標

【 内 容 】

家庭や職場などで突然のけがや病気におそわれた時、傷病者の命を救い、または悪化を防ぐためには、そばに居合わせた人による応急手当てが極めて重要です。救急隊到着までの市民による応急手当と市内１９８箇所に設置されたＡＥＤ使用の重要性を広く市民に周知し、万が一の事態に備えるため応急手当講習会の受講を訴えていきます。併せて、各施設や事業所及び地域へ出向いての応急手当普及啓発に取り組みます。

【 指 標 】

昨年度の受講者数は延べ９７９名でした。今年度も引き続き応急手当及びＡＥＤの効果や重要性を訴え、市民２０人に一人の方の割合で救急法等を受講していただくことを目標に、昨年以上の普通救命講習及び救急法の指導推進に努めます。（目標受講者数：延べ１，７００名）

２．実績（成果）

講習種別	平成２６年度中		平成２７年度中		平成２８年度中	
総受講者数	115回	2,050名	52回	979名	37回	1223名
普通救命講習	34回	274名	18回	173名	21回	322名
救急法講習	81回	1,776名	34回	806名	16回	901名

市民によるAED使用の救急事案

平成２６年度		平成２７年度		平成２８年度	
AED使用件数	７件	AED使用件数	１件	AED使用件数	６件
除細動適応件数	０件	除細動適応件数	０件	除細動適応件数	１件

３．評　　価　△

南北に延び、かつ広面積の対馬島内で発生する救急事案（特に心肺停止事案）に対し、救急隊が現場到着に至る間の市民による応急手当（ＡＥＤ・心肺蘇生実施）の有無が傷病者救命率に大きく影響します。本年度も、島内に設置されているＡＥＤを有効活用するために、応急手当の普及啓発に取り組んだ結果、総受講数１２２３名と目標の１，７００名に及ばなかったものの、昨年度と比較すると多くの市民へ普及啓発することができました。また、救急隊到着前に市民によるＡＥＤ使用件数が６件、うち除細動適応（電気ショック実施）が１件あります。これも市民の早期応急手当と並行したＡＥＤ活用の成果であると思われます。

４．今 後 の 展 開

島内設置のＡＥＤを有効活用するために、継続して市民へ応急手当の普及啓発を図ります。また、１１９通報時の口頭指導と併せ、ＡＥＤ設置場所の情報提供を行い、早期の応急手当を実現することで救命率の向上を目指します。今後も市民と救急隊による救命リレーの質の向上を図るとともに、傷病者の社会復帰を目標に引き続き普及啓発を展開していきます。

全体	59
個別	12-03

平成２８年度 ［消　　防　　本　　部］ 目標の成果

課　名	予　　防　　課

No.	項　　目	住宅用火災警報器設置促進、維持管理及び宿泊施設の消防用設備等設置促進

１．組 織 目 標

【 内 容 】
１．住宅用火災警報器設置促進のため、火災予防運動や広報等を通して設置促進を図るとともに、電池等の維持管理の指導を行います。
２．小規模な既存の宿泊施設に対する自動火災報知設備の早期設置指導及び防火管理の徹底を行います。
【 指 標 】
１．住宅用火災警報器低設置地区５０％未満の地区を０にします。
２．自動火災報知設備の義務対象となる小規模な既存宿泊施設４１施設に対して立入検査等を実施して、早期設置に取り組みます。
（設置猶予期間　平成３０年３月３１日まで）

２．実績（成果）

・秋季火災予防運動および歳末火災特別警戒並びに春季火災予防運動において、一般家庭防火診断を実施した際に、住宅用火災警報器設置促進と電池等の維持管理指導を行ったところですが、設置率５０％未満の低設置地区を解消することは出来ませんでした。

・小規模な既存の宿泊施設に対する自動火災報知設備は、１９施設に設置が完了し新規に宿泊施設を開業する施設に関しては、順調に設置が進んでいます。

３．評　　価　△

・住宅用火災警報器の設置については設置率５０％未満の低設置地区解消は出来なかったものの、対馬市全域の設置率は平成２７年度設置率７０．１６％から７５．５１％と約５％向上しました。

・小規模な既存の宿泊施設に対する自動火災報知設備の早期設置指導は猶予期間の平成３０年３月３１日までに、全施設設置に向け順調に進んでいます。

４．今 後 の 展 開

・平成２９年度以降も住宅用火災警報器未設置世帯に対し地道な指導を続けるとともに、ホームヘルパーや地区の民生委員などに協力を依頼し設置率向上を目指します。

全体	60
個別	13-01

平成２８年度　［教育委員会事務局］　目標の成果

課　名	総　　務　　課

No.	項　　目	教育施設の充実・整備、有効活用を推進します。

１．組織目標

【 内 容 】
平成２３年２月４日に示された対馬市立学校適正規模、適正配置等検討委員会の答申を受け策定した「対馬市立学校及び幼稚園統合推進計画」に基づき、保護者説明会及び住民説明会を実施し、学校及び地域住民の理解のもと学校統廃合を進めます。

【 指 標 】
○統合校　１校

２．実績（成果）

保護者説明会及び地区住民説明会を実施し、大調小学校を金田小学校へ統合することについて、上槻・久根浜・久根田舎地区の合意を得ることが出来ました。
平成３０年４月１日に統合される予定です。

３．評　　価　◯

年度末までずれ込んでしまったものの、上槻・久根浜・久根田舎地区の合意を得ることができたのは、非常に高く評価できます。

４．今後の展開

対馬市立学校及び幼稚園統合推進計画をもとに、保護者及び地区住民の意向を十分尊重しながら学校の統廃合を推進します。併せて子どもたちが安全で安心に学校生活が送れるよう施設の環境整備を進めていきます。

全体	61
個別	13-02

平成２８年度　［教育委員会事務局］　目標の成果

課　名	学　校　教　育　課

No.	項　　目	確かな学力・豊かな心を育む教育活動の推進

１．組　織　目　標

【 内 容 】
【対馬の未来を担う人材育成のための教育の推進】
１．郷土を知り、愛し、未来につなぐ学びの充実
２．指導力向上及び生徒指導の充実
３．特別支援教育の充実
４．学校不適応児童生徒を減らすための対策の充実・推進
【 指 標 】
１．郷土を知り、愛し、未来につなぐ学びの充実
(1)ＥＳＤ教育を通したふるさと学習と学力向上対策のための研修と実践奨励
(2)中高が連携した教育実践数を増やす
２．指導力向上及び生徒指導の充実
(1)研究会などを通して、少人数指導の工夫改善を奨励する
(2)アクティブ・ラーニングの周知と各校１回の授業実践を推奨する
(3)子どもの人権保護を重視した生徒指導体制の改善（体罰の根絶）
３．特別支援教育の充実
(1)県立虹の原特別支援学校高等部対馬分教室との連携を探る
(2)ＳＳＷや関連機関との共通理解・共通実践に取り組む
(3)研修の充実と介助員の有効活用を図る
４．学校不適応児童生徒を減らすための対策の充実・推進
(1)ＳＳＷ、ＳＣ及び教育相談員の効果的な活用
(2)学校不適応及びその傾向にある児童生徒数の縮減
(3)各学校、関係機関及びフリースペース「みちしるべ」との連携

２．実績（成果）

１．郷土を知り、愛し、未来につなぐ学びの充実
(1)ＥＳＤ教育に関する各種研修会を実施しました。
(2)上対馬高校と中学校２校との授業交流等を実施しました。
２．指導力向上及び生徒指導の充実
(1)指導法改善研修会を小１回、中２回開催。研究指定校の研究充実を支援しました。
(2)各種研修会や学校訪問の際に、次期学習指導要領に関する情報提供に努めました。
(3)定例校長会及び教頭会において、体罰の根絶について繰り返し指導しました。
３．特別支援教育の充実
(1)特別支援教育関係の研修会で、分教室教諭による講義を３回実施しました。
(2)ＳＳＷ及び分教室と、各学期末に情報交換会を実施しました。
(3)介助員及び教育相談員を対象とした研修会を実施しました。
４．学校不適応児童生徒を減らすための対策の充実・推進
(1)ＳＳＷが２名体制となり、相談機会の増加につながりました。
(2)ＳＣ対応児童生徒実数１３５名のうち８６名が解消又は一定解消となりました。
(3)毎月の不登校児童生徒報告を基に、状況把握と改善に向けての助言に努めました。

３．評　　価　○

各種研修会や学校訪問、研究指定校事業などを計画通りに実施し、教職員への指導や助言を通して、目標の実現に努めることができました。
(1) 確かな学力の定着に向けて、指導法改善研修会や複式指導法研修会等の各種研修会を実施して教職員の指導力向上に努めることができました。
(2) １０年経験者研修や学校訪問等の際に、道徳の授業参観や授業づくりの指導を行い、道徳教育の充実につなげることができました。

４．今後の展開

(1) 学力調査後に得られる各種資料を単なる分析に終わらせず、各学校の指導改善に結びつくようきめ細かな指導に努めます。
(2) 平成２９年度は、郷土を愛し、豊かな心と確かな学力を身に付けた子供を育成するために、指導主事自身の資質向上と教職員への指導の充実に努めます。

全体	62
個別	13-03

平成２８年度　［教育委員会事務局］　目標の成果

課　名	生　涯　学　習　課

No.	項　　目	スポーツ施設の整備・魅力化

１．組　織　目　標

【 内 容 】
対馬市中央部に位置する峰総合運動公園陸上競技場は、現在、アンツーカー(土)のトラックで、雨天により使用が確実でなく、大会運営上支障をきたしていること、また、選手が県大会等島外に出場した際、全天候型トラックへの対応ができず力を発揮できないことがあることから、全天候型ウレタントラックに改修を行います。

【 指 標 】
全天候型ウレタントラック　３００ｍ、８レーン、跳躍ピット
トラック内外（競技場敷地内）の芝生化
平成２９年６月より施設利用開始予定

２．実績(成果)

全天候型ウレタントラック３００ｍ、８レーン、跳躍ピットの改修工事が平成２９年３月末に完成しました。

３．評　　価　◯

目標どおりの施設改修及び工事期限までに完了し、充実した体育施設の整備を図ることができました。

４．今後の展開

施設整備の完了に伴い、利用促進及び利用者数の増大を図ります。

全体	63
個別	13-04

平成２８年度　［教育委員会事務局］　目標の成果

課　名	生　涯　学　習　課

No.	項　　目	芸術文化鑑賞の機会充実及び市民文化活動の支援

１．組　織　目　標

【 内　容 】
○美術鑑賞の機会の少ない対馬市において、県展入賞作品及び対馬市在住者の入賞作品を移動展示するとともに、児童や学生を対象に専門家によるワークショップ・実演などを行います。

【 指　標 】
○作品出展数：100点ほど
○ワークショップ：油絵教室　小学校生5～6年生　20名程度化
○来場者目標：1,000人

２．実績（成果）

○作品出展数：120点
（日本画8点、洋画23点、彫刻6点、工芸11点、書17点、写真41点、デザイン14点）

○ワークショップ：（油絵教室）比田勝小学校5～6年生23名

○来場者数：320人

３．評　　価　◯

高度なすばらしい作品を展示することができ、優秀な芸術作品の鑑賞機会の少ない本市においては、市民の多くの方々に感動を与えられました。
さらにワークショップでの油絵体験学習は、学校の授業では機会が少なく、子どもたちの発想を豊かにする貴重な体験となりました。

４．今後の展開

市内における文化活動団体とも連携を密にし市民美術展等における質の向上、新規出展者の発掘・拡大等に努めるとともに、一人でも多くの市民の皆様に文化芸術に関心を持っていただけければと考えます。

全体	64
個別	13-05

平成２８年度　［教育委員会事務局］　目標の成果

課　名	文　化　財　課

No.	項　　目	文化財の保存・活用を図ります。

１．組織目標

【 内 容 】
①　指定文化財の保存整備を継続して実施します。

②　「赤米サミット」を開催します。

【 指 標 】
①国指定史跡4箇所、県指定史跡2箇所の整備事業に継続して取り組みます。
②赤米伝統文化交流協定を締結している岡山県総社市、鹿児島県南種子町の関係者を迎え、赤米サミットを開催し、日本遺産の構成文化財である赤米について広くPRします。

２．実績（成果）

①ほぼ計画どおり、保存整備工事を実施しました。
②平成２８年１１月１４日に開催し、赤米伝統文化交流協定を締結している岡山県総社市、鹿児島県南種子町の関係者、赤米諮問大使である相川七瀬氏にも出席いただきました。
また、市民約５０名、地元である豆酘小中学校の児童・生徒にも参加いただき、サミットに花を添えていただきました。

３．評　　価　◯

①史跡整備につきましては、計画どおり実施することができました。
②赤米サミットにつきましては、関係者や地元の方に多数来場いただき、無事終了いたしました。

４．今後の展開

①史跡整備については、今後も事業を継続し、利用者の利便性の向上を図りながら有効活用を目指していきます。
②赤米伝統文化交流協定を締結している岡山県総社市、鹿児島県南種子町との交流を深め、貴重な文化財の継承を図っていきます。